



三陸防災復興プロジェクト 2019 実施結果報告

1 実施結果（総括）

6月1日から8月7日までの68日間に開催した三陸防災復興プロジェクト2019は、三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会が主催する22の事業に加え、市町村や関係機関が軌を一にして実施した関連事業により、復興に力強く取り組んでいる地域の姿、東日本大震災津波の記憶と教訓を国内外に発信するとともに、岩手県沿岸、三陸地方が本来もっている魅力を伝えてきました。

このプロジェクトには、国、外国政府、国際機関、企業、団体、国内外の防災関係の有識者、そして次世代を担う若者など、多くの方に参画いただき、多様な主体とのつながりも復興の力とする「開かれた復興」の意義を確認するとともに、岩手の復興が、世界、そして未来に広がっていく形を共有することができました。

特に、震災で大きな被害を受けた三陸沿岸をはじめ、県内全市町村の郷土芸能が一堂に会した「いわて絆まつり in 宮古 2019」には多くの県民の方に来場していただき、そのパレードでは、県内各市町村長等が心一つにして、改めてオール岩手で復興のゴールに向かって進んでいく姿を示すことができました。

会期中は、全国各地また海外からも参画いただきながら様々な事業を行ってきましたが、海外や国内の著名シェフが参加した食の国際会議や産地視察では、三陸の食が高い評価を受け、世界に誇れる食のまちの形成に向け、大きな弾みとなりました。

また、復興支援を続ける企業・団体・著名人の方々と協働で、人々に安らぎと勇気を与え、「復興の力」となっている文化芸術やスポーツに関する事業を行い、支援者とのつながりを更に深めるとともに、新たな交流も生まれました。

さらに、東日本大震災津波の教訓の伝承や持続的な地域振興には、次世代を担う若者の参画が重要であることから、このプロジェクトには、県内の小学生から高校生までの児童生徒や県内外の大学生など、岩手の未来を担う若者が主体的に参画し、復興や三陸の魅力を発信する事業を共に行っていただきました。

今回、オール岩手の体制で実施した三陸防災復興プロジェクト2019は、東日本大震災津波の被災県からの教訓を国内外と共有するとともに、三陸の多様な魅力を来場者に体感していただき、つながりの深化と更なる交流の活発化に寄与したと考えています。

このことは、岩手県の復興の基本方針である「いのちを守り海と大地と共に生きるふるさと岩手・三陸の創造」を実現するための大きな一歩になったと考えます。

今後とも、オール岩手で全国や海外とつながりながら、復興の成功と岩手の未来に向かって歩んでいきます。

2 事業の実施結果

－国内外に向けた防災復興の発信－

三陸防災復興プロジェクト 2019 オープニングセレモニー

(1) 実施概要

復興に力強く取り組んでいる三陸地域の今と、復興への支援に対する感謝の思いを発信しました。

セレモニーでは、日本政府（復興庁）・米国大使館・国連防災機関から、復興や防災に関するスピーチを実施したほか、復興支援でつながりのある八神純子さんのライブを実施しました。

また、開催日に合わせ、沿岸の事業者が中心となって三陸の食のブース出展が行われ、三陸の食の魅力も発信しました。

◆開催日 2019年6月1日（土）

◆会場 釜石市民ホール TETTO ホールA
（釜石市）

◆来場者数 700人

◆主な内容

主催者代表あいさつ

三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会会長
岩手県知事 達増 拓也

復興の取組状況の報告

スピーチ「海外からの復興支援」

米国大使館

臨時代理大使 ジョセフ・M・ヤング氏

スピーチ「東日本大震災津波が国際的な防災議論に与えた影響」

国連防災機関（UNDRR）

駐日事務所代表 松岡 由季氏

若者による復興の取組報告

TOMODACHI イニシアチブの支援プログラム

卒業生 吉浜 知輝氏



実行委員会会長 岩手県知事 達増 拓也



米国大使館 臨時代理大使
ジョセフ・M・ヤング氏



国連防災機関（UNDRR）
駐日事務所代表 松岡 由季氏



TOMODACHI イニシアチブ 支援プログラム
卒業生 吉浜 知輝氏

トーク&ライブ 八神純子さん



(2) 実施効果

- 復興庁、米国大使館、国連防災機関、次世代を担う若者、国内外の防災関係の有識者などの参画により、多様な主体とのつながりも復興の力とする「開かれた復興」の意義を確認するとともに、岩手の復興が世界そして未来に広がっていくという形を共有し、プロジェクトの開催趣旨や復興支援への感謝の気持ち、そして、復興の歩を進める地域の姿を国内外に発信することができました。
- オープニングセレモニーに併せて、シンポジウムと防災復興展示会を開催したことにより、県内外の多くの来場者に、東日本大震災津波からの復興の歩みと「復興の今」を見ていただくことができました。
- また、参加者に対し、会期中の事業の紹介を行うことはもとより、当該セレモニーの様子が県内外の報道機関で大きく報道されることで、プロジェクトの周知と参加機運の醸成が図られました。
- さらに、当該セレモニーと軌を一にして、沿岸の事業者が中心となった食のイベント（さんりくるっと in 釜石 2019）が会場隣接地で実施され、三陸の食の魅力を発信するとともに、ラグビーワールドカップ2019日本大会の釜石開催に係るPRも行うなど、同大会の機運醸成にもつながりました。

三陸防災復興プロジェクト 2019 クロージングセレモニー

(1) 実施概要

国内外からの復興支援に対する感謝とともに、復興を続ける三陸の“今”と、未来へ向け持続的な発展を目指す決意を発信しました。

また、閉幕を彩るコンサートとして、不来方高等学校音楽部の生徒の合唱のほか、復興支援でつながりのある坂本龍一さんと東北ユースオーケストラによるピアノ五重奏の演奏を行いました。

- ◆開催日 2019年8月7日（水）
- ◆会場 夢アリーナたかた（陸前高田市）
- ◆来場者数 1,300人
- ◆主な内容

追悼の合唱「群青（ぐんじょう）」

岩手県立不来方高等学校音楽部



ストーリーテラー 村上 弘明 さん

主催者代表あいさつ

三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会会長
岩手県知事 達増 拓也

プロジェクト開催報告

ストーリーテラー 村上 弘明 氏

スピーチ「未来への希望」

岩手県立高田高等学校 生徒
NPO法人SET
一般社団法人SAVE TAKATA



「未来への希望」岩手県立高田高等学校の生徒



NPO 法人 SET
上田 彩果 さん



一般社団法人
SAVE TAKATA
坪井 奈穂美さん

クロージングコンサート

合唱 岩手県立不来方高等学校音楽部

ピアノ五重奏 坂本 龍一 氏、東北ユースオーケストラ



岩手県立不来方高等学校音楽部



坂本龍一さん&東北ユースオーケストラ ピアノ五重奏

(2) 実施効果

- 三陸地域で復興に取り組む若者を代表して、地元高等学校の生徒等が発表した「未来への希望」により、復興の未来に向け、地域の持続的な発展を目指して取り組んでいこうとする強い決意が表明されました。
- また、本プロジェクトでは、復興支援をきっかけとして生まれた文化人、アスリート等の著名人をはじめ、企業・団体等との多様なつながりや支援により、多くの事業を展開したところであり、プロジェクトの開催報告の中で、改めて支援に対する感謝の思いを発信しました。

- 未来に向けた決意や、支援への感謝の思いは、来場者はもとより、県内外の報道機関を通じて広く発信されました。
- なお、開催市を含む近隣住民の参加者の中には、不来方高等学校の合唱に合わせて手話をしながら楽しむ方や、坂本龍一氏の演奏に涙しながら聞き入る方もおり、つながりに対する感謝の思いを共有することができました。
- 今回のクロージングイベントは、陸前高田市の七夕行事と同一日に開催し、相互の実行委員会で実施時間を調整するなど、観光面での相乗効果を上げる工夫を行いました。新聞報道では、陸前高田市内で開催された七夕祭りと合わせて2大イベントとして特集され、大きな情報発信効果も得られたと考えます。

三陸防災復興シンポジウム（全4回）

(1) 実施概要

各回でテーマを設定し、東日本大震災津波の記憶と教訓を伝え、日本国内はもとより、世界の防災力向上に貢献するためのシンポジウムを開催しました。

第1回 シンポジウム

◆開催日 2019年6月1日（土）

◆会場 釜石市民ホール TETTO
ホールA（釜石市）

◆来場者数 400人

◆テーマ

これからの防災

～東日本大震災と世界の自然災害の教訓から学ぶ新しい防災のカタチ～

・基調講演

災害に強いこれからのまちづくり

～日本の災害教訓から学ぶ台湾の防災システムと地域防災まちづくり～

講師 台湾・長榮大学 土地管理與開發学科 教授 邵珮君（Shao, Pei-Chun）氏

・パネルディスカッション

未来につなぐ災害に強い地域づくり

～過去の被災・復興の教訓をふまえたこれからの地域づくり～

コーディネーター

首都大学東京 名誉教授 中林 一樹 氏

パネリスト

台湾・長榮大学 土地管理與開發学科

教授 邵珮君（Shao, Pei-Chun）氏

インドネシア・アチェ津波博物館

館長 ハフニダール（Hafnidar）氏

株式会社日本政策投資銀行 サステナビリティ企画部

BCM格付主幹 兼 経営企画部 蛭間 芳樹 氏

岩手大学工学部（地域防災研究センター）

教授 南 正昭 氏



基調講演 長榮大学 教授 邵珮君 氏



パネルディスカッション



第1回シンポジウム 分科会

◆分科会テーマ1：災害看護・災害時の公衆衛生

中長期の復興を見据えて～いまもなお復興途上にある被災地から～

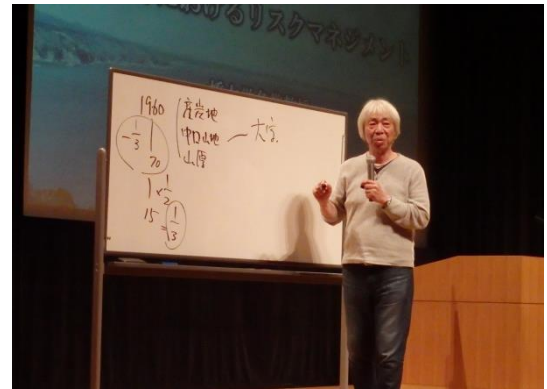
- ・開催日 2019年6月2日（日）
- ・会場 釜石市民ホール TETTO ホールB（釜石市）
- ・来場者数 90人
- ・基調講演
中長期的な人々の生活と健康を視野に入れた災害時の看護活動・保健活動について
講師 オフィスいわむろ 代表 岩室 紳也 氏
(陸前高田市ノーマライゼーション大使)
- ・パネルディスカッション
有事も平時も できる人ができることを
～被災地の経験から 日々の生活につながること～
コーディネーター
オフィスいわむろ代表 岩室 紳也 氏
岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座助教 佐々木 亮平 氏
パネリスト
株式会社くまもと健康支援研究所代表取締役 松尾 洋 氏
釜石市食生活改善推進員協議会会長 佐々木 ひろ子 氏
岩手県立中央病院 特任看護師 小野寺 直子 氏

◆分科会テーマ2：いわての復興教育～「いわての復興教育」の充実に向けて～

- ・開催日 2019年6月2日（日）
- ・会場 鵜住居地区公民館（釜石市）
- ・来場者数 100人
- ・パネルディスカッション
ふるさと
故郷の宝、子供たちの未来のために～「いわての復興教育」の現状とこれから～
コーディネーター
文部科学省 安全教育調査官 森本 晋也 氏
助言者
盛岡市立黒石野中学校 校長 藤岡 宏章 氏
パネリスト
釜石市立釜石小学校 校長 高橋 勝 氏
釜石市立釜石東中学校 教諭 宇夫方 朋子 氏
三陸ひとつなぎ自然学校 代表理事 伊藤 聡 氏
同 理事 柏崎 未来 氏
及川 真穂 氏 (釜石市立甲子小学校教諭、東日本大震災津波当時釜石市内中学生)

第2回 シンポジウム

- ◆開催日 2019年6月28日（金）
- ◆会場 久慈市文化会館アンバーホール
小ホール
- ◆来場者数 250人
- ◆テーマ
なりわいの再生と新たな三陸の創造
～三陸の豊かさを生かした持続可能な産業を考える～



基調講演 一橋大学 名誉教授 関 満博 氏

- ・基調講演
産業分野におけるリスクマネジメント
講師 一橋大学名誉教授 関 満博 氏

・事例報告

東日本大震災津波からの復興の取組や、地域産業の振興に向けた新たな取組等について
報告者 株式会社ひろの屋 代表取締役 下苧坪 之典 氏
久慈地域エネルギー株式会社 取締役 若林 治男 氏



事例報告
（株）ひろの屋 代表取締役 下苧坪 之典 氏



事例報告
久慈地域エネルギー(株) 取締役 若林 治男 氏

- ◆エクスカージョン 2019年6月29日（土）
久慈地下水族科学館もぐらんびあ、道の駅のだ、涼海の丘ワイナリー（工場見学）

第3回 シンポジウム

- ◆開催日 2019年7月19日（金）
- ◆会場 大船渡市民体育館
- ◆来場者数 250人
- ◆テーマ
コミュニティを基盤とした防災力の向上
～つながりの力で災害から地域を守る～



基調講演
国土館大学防災・救急救助総合研究所
教授（元 NHK 解説委員） 山崎 登 氏

・基調講演

災害情報と地域の防災力

講師 国土舘大学防災・救急救助総合研究所 教授（元NHK解説委員） 山崎 登 氏

・事例報告

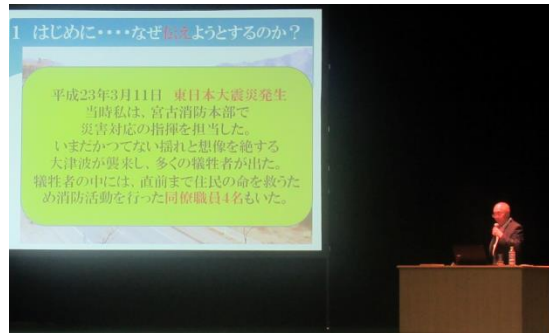
自主防災組織の活動事例や、東日本大震災津波や平成28年台風第10号災害の教訓を踏まえた活動事例について

報告者 災害伝承語り部 吉田 忠雄 氏

岩泉町危機管理監 佐々木 重光 氏



事例報告 震災伝承語り部 吉田 忠雄 氏



事例報告 岩泉町危機管理監 佐々木 重光 氏

◆エクサカーション 2019年7月20日（土）

大船渡市防災観光交流センター、赤崎地区公民館（漁村センター）、キャッセン大船渡、陸前高田市内の震災遺構、新市街地など

第4回 シンポジウム

◆開催日 2019年7月26日（金）

◆会場 イーストピアみやこ 多目的ホール（宮古市）

◆来場者数 150人

◆テーマ

鉄道とフェリーがつなぐ福幸

～新たな三陸交通網を活用した地域間交流と地域活性化の ヒント～

・基調講演

新しい交通ネットワークを核とした地域活性化について

講師 NPO法人おいしいローカル線をつくる会 理事長 鳥塚 亮 氏

・事例報告

交通ネットワークを活用した交流人口の拡大、産業振興・観光振興に関する活動内容の報告

報告者 宮古観光創生研究会代表／イカ王子プロジェクト広報大臣 花坂 雄大 氏

公益財団法人アイヌ民族文化財団 専務理事兼事務局長 今井 太志 氏



基調講演
NPO法人おいしいローカル線をつくる会
理事長 鳥塚 亮 氏



事例報告
宮古観光創生研究会代表／イカ王子
プロジェクト広報大臣 花崎 雄大 氏



事例報告
公益財団法人アイヌ民族文化財団
専務理事兼事務局長 今井 太志 氏

◆エクスカーション 2019年7月27日（土）

田老の防潮堤、たろう観光ホテル、三王岩、道の駅たろう、三陸鉄道（田老駅、宮古駅）

(2) 実施効果

- 全4回のシンポジウム及び分科会では、国内外の有識者や、各地の復旧・復興活動主体からの報告により、東日本大震災津波の経験・教訓のみならず、未来の災害に向けた備えについて情報を共有することができました。
また、これらの様子については、岩手日報で特集されたほか、各種報道でも取り上げられ、本県の復興状況への理解促進や今後の取組に係る支援・参画を促すきっかけとなりました。
- 第1回シンポジウムのパネリストであるアチェ津波博物館のハフニダール館長（インドネシア）には、「いのちをつなぐ未来館」（釜石市）において、地域の若者との交流会に参加いただき、沿岸地域の次世代を担う若者へ、震災の経験を傳承することの大切さを伝えていただいたほか、東日本大震災津波傳承館と今後の連携について意見交換を行い、両館の今後の継続したつながりのきっかけとなりました。
- コミュニティを基盤とした防災力の向上をテーマとした第3回シンポジウムには、他県のコミュニティ協議会の関係者が参加するなど、県内外の住民の防災意識の喚起、向上につなげることができました。
- 全4回のシンポジウムとともに、防災関係者や通信事業者等が出展した体験型の防災復興展示会を併催し、座学と体験型イベントを一体的に実施したことから、東日本大震災津波から得られた教訓や、平時からの備えの重要性を効果的に発信することができ、地域の防災力や国内外の防災力向上に寄与しました。

三陸防災復興展示会（全4回）

(1) 実施概要

自衛隊や海上保安庁などの防災関係者や、通信事業者等との協働・連携により、災害への備えや防災に関する知識を学ぶ体験型防災展示会を三陸防災復興シンポジウム会場で一体的に実施しました。

また、本プロジェクトの会期中、沿岸13市町村の公共施設等の情報発信拠点に東日本大震災津波の被災状況や復旧・復興の様子を伝えるパネルを展示しました。

◆第1回体験型展示会

- ・開催日 2019年6月1日（土）～2日（日）
- ・会場 釜石市民ホール TETTO、釜石港

◆第2回体験型展示会

- ・開催日 2019年6月28日（金）～29日（土）
- ・会場 久慈市文化会館アンバーホール、久慈港（半崎地区）

◆第3回体験型展示会

- ・開催日 2019年7月19日（金）～20日（土）
- ・会場 大船渡市民体育館、大船渡港（野々田地区）

◆第4回体験型展示会

- ・開催日 2019年7月26日（金）～27日（土）
- ・会場 イーストピアみやこ、宮古港（出崎地区）

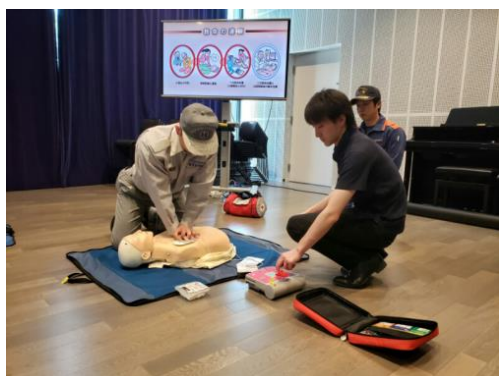
◆来場者数 延べ13,000人



[地震体験車・地震体験]



[煙体験]



[応急手当体験]



[消火体験]



〔自衛隊車両展示〕



〔排水ポンプ車展示〕



〔高所作業車展示・搭乗体験〕



〔情報発信拠点での復興パネル展示〕



〔関係機関によるパネル展示〕

(2) 実施効果

- パネル展示等により、東日本大震災津波の記憶と教訓や復興に取り組む姿を、来場者に発信しました。また、この様子は、新聞・テレビ等の多数のメディアに取り上げられ、広く情報発信が図られました。
- ヤフー社と連携した防災模試体験のほか、参加団体による気象講座や応急処置体験などの講習等を通じて、防災・減災に関する知識習得の機会を提供し、防災意識の向上につなげることができました。これらの体験は、今後の地域における継続的な防災対策の取組の端緒となることが期待されます。
- 民間企業も含めた多くの災害支援に関わる団体の協力のもとで、活動状況のパネル展示や、災害支援車両、設備等の展示が行われ、来場者が身近に触れる機会を提供することができました。これにより、来場者による各支援団体の活動理解はもとより、来場者と参加団体との交流や、参加団体間の交流促進を図ることができました。
- 一方、会場ごとの具体的展示車両等や体験内容に関する広報が、開催直前となったことから、十分な周知が図られていなかったのではないかと御意見もあり、段階的な周知等によるきめ細かな情報発信が必要であったと考えています。

三陸ジオパーク ワクワクフェスタ

(1) 実施概要

三陸ジオパークフォーラムの開催のほか、三陸沿岸の各博物館施設等による初の共同企画展「岩手の海とジオの魅力展」を実施しました。

また、国立科学博物館と県立博物館の連携協力による共同巡回展示や、釣り用品メーカーのグローブライド(株)の協力による親子釣りイベントを実施しました。

ジオパークフォーラム

- ◆開催日 2019年6月8日(土)
- ◆会場 岩泉町民会館(岩泉町)
- ◆来場者数 394人
- ◆基調講演 日本のジオパーク
講師 京都造形芸術大学学長(前日本ジオパーク委員会委員長) 尾池 和夫 氏
- ◆ミニ講演①ジオパークって何？
講師 三陸ジオパーク推進協議会
コーディネーター 杉本 伸一 氏
- ◆ミニ講演②文化や食などを通じたジオパークの活用
講師 栗駒山麓ジオパーク 元専門員 佐藤 充 氏
下北ジオパーク 推進員 石川 智 氏

ジオパークフォーラム エクスカーションツアー

- ◆開催日 2019年6月7日(金)、8日(土)
- ◆参加者数 延べ99人(5コース実施)
 - A 安家洞(安家石灰岩・鍾乳洞の形成) ▶江川ドリーネ(石灰岩地形、龍泉洞水源地) ▶龍泉洞(龍泉洞の水、地下水系)
▶うれいら商店街(宇霊羅山、龍泉洞の水を使った生活・産業)
 - B 小本津波防災センター(岩泉の地質、モシリユウ)
▶茂師海岸(宮古層群と現地山層、三陸海岸の地形) ▶ハイペ海岸(宮古層群の地形、化石など)
 - C 三陸鉄道[釜石駅→宮古駅](震災学習、震災語り部)
▶浄土ヶ浜(宮古層群の地形) ▶みやこ浄土ヶ浜遊覧船(宮古層群の地形、潮吹き岩など)
 - D 龍泉洞(地底湖見学)
 - E 散策(清水川遊歩道散策) 龍泉新洞科学館(鍾乳洞の形成、水流の痕跡)



基調講演
京都造形芸術大学学長 尾池 和夫 氏



[VR 視聴体験]



[アンモナイトレプリカ制作体験]



[エクスカーションツアー]

共同企画展「岩手の海とジオの魅力展」

- ◆三陸の海はクラゲいっぱい展[久慈地下水族科学館もぐらんぴあ (久慈市)]

2019年6月25日(火)～8月31日(土)

- ◆大地を掘ると、海の恵みがみえてくる[宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム (宮古市)]

2019年7月13日(土)～9月29日(日)

- ◆磯の生物展 [岩手県立水産科学館 (宮古市)]

2019年7月12日(金)～8月18日(日)

- ◆クジラのすむ海ー浅い海から深い海までー[山田町立鯨と海の科学館 (山田町)]

2019年6月1日(土)～8月7日(水)

- ◆おらほの話っこ聞いてください [釜石市郷土資料館 (釜石市)]

2019年6月8日(土)、6月22日(土)、7月6日(土)、7月20日(土)、8月3日(土)

- ◆気仙と津波～大船渡・陸前高田～ [大船渡市立博物館・陸前高田市立博物館協働展示 (大船渡市立博物館で展示)]

2019年6月15日(土)～8月18日(日)

- ◆国立科学博物館・岩手県立博物館コラボミュージアム「生命のれきしー君につながるものがたりー」

・岩泉会場：2019年6月2日(日)～6月16日(日)

岩泉町小本津波防災センター 集会室兼多目的室

・大船渡会場：2019年6月22日(土)～7月15日(月)

大船渡市立博物館 多目的ホール

- ◆来場者数 延べ23,522人



[もぐらんぴあ]



[宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム]



[岩手県立水産科学館]



◀ [山田町立鯨と海の科学館]

[釜石市郷土資料館] ▶



◀ (国立科学博物館
・岩手県立博物館
コラボミュージアム

[大船渡市立博物館] ▶
(陸前高田市立博物館との協働展示)



親子釣りフェスタ&ジオツアー

◆開催日

- A 岩手の海を学ぶ！夕釣りコース 2019年8月3日（土）
- B 浜の歴史を紐解く！朝釣りコース 2019年8月4日（日）

◆会場 宮古市

親子釣りフェスタ（出崎埠頭）
ジオツアー（岩手県立水産科学館、崎山貝塚縄文の森ミュージアム、みやこ浄土ヶ浜遊覧船乗船ほか）

◆参加者数 28人

- A 岩手の海を学ぶ！夕釣りコース 7組14名
- B 浜の歴史を紐解く！朝釣りコース 7組14名



(2) 実施効果

- フォーラム開催のほか、初の試みであった三陸地域の複数の博物館施設による共同企画展示や親子釣りフェスタなどの多彩な事業を実施し、三陸ジオパークに係る重層的な情報発信を行い、三陸ジオパークの認知度の向上に寄与しました。
- フォーラムでの体験コーナーや、共同企画展での展示の工夫、釣りを通じて海やジオパークに触れるなど、多くの親子連れの参加を得ることができ、家族で楽しみながらジオパークに触れる機会を提供することができました。
- 「三陸ジオパーク」をテーマとして、フォーラムや博物館施設での共同展示など多角的な学びの場を提供することができました。

三陸ジオパーク フォトログイニングフェスティバル

(1) 実施概要

日本フォトログイニング協会に全面協力いただいたほか、県内外大学のオリエンテーリング部の運営参画を得て、岩手沿岸地域初開催となるフォトログイニング大会を開催しました。

地点の設定に当たっては、三陸沿岸の景勝地のみならず、みちのく潮風トレイルや震災遺構も組み合わせました。

沿岸南部エリア大会

- ◆開催日 2019年6月15日(土)
- ◆会場 釜石市～大槌町
- ◆参加者数 156人(56組)

沿岸北部エリア大会

- ◆開催日 2019年7月6日(土)
- ◆会場 普代村～野田村
- ◆参加者数 130人(47組)



(2) 実施効果

- 参加者からは、ジオサイトの素晴らしさや気付きに関する多くの感想が寄せられ、三陸ジオパークに対する参加者の理解促進や、認知度向上に寄与することができました。
- 県内各地からの参加者のほか、日本フォトログイニング協会公認の大会として位置付けられたことから、東北、関東、東海など国内の広範囲からの参加があり、その半数以上が会場市町村を初訪問であったなど、大会を契機とした交流人口の拡大を図ることができました。
- 大会運営においては、設定地点に震災遺構を組み込んだほか、参加者に防災マップを配布し説明を行っており、参加者から「浸水地域の記載が参考になった」との意見をいただくなど、参加者の防災意識の醸成・向上に寄与することができました。
- 2大会とも、複数市町村で広範囲のエリアを会場としたことから、一部の行程においては送迎バスを運行したところであるが、利用希望者が集中し、乗車ができない方が発生したため、今後の取組継続に当たっては、エリアの設定について十分な検討が必要と考えています。



美味えがすと三陸「-Gastronomy SANRIKU-構想」推進プロジェクト

(1) 実施概要

国内外の著名なシェフ等が一堂に会する国際会議を開催し、ガストロノミー（美食術・食文化）の視点から三陸の魅力を発信するとともに、三陸美食サロンでシェフが協働してフュージョンディナーを実施しました。

国際的な美食ネットワークの形成

国内外の著名なシェフ等が一堂に会する「三陸国際ガストロノミー会議 2019」、県産農林水産物等を集めた「いわて黄金食財見本市」、国内外料理人が腕を振るう「三陸美食サロン」を実施。

三陸防災復興プロジェクト 2019 の開催に合わせ、国内外の著名なシェフによる三陸と世界をつなぐ「食」のキャラバンを実施。

◆三陸国際ガストロノミー会議 2019

国内外の著名なシェフ・専門家等の講演やトークセッション

・開催日 2019年6月10日（月）～11日（火）

・会場 宮古市民文化会館（宮古市）

・主な出演者

オリヴィエ・ローランジェ 氏（海外シェフ／フランス料理）

リッチー・リン 氏（海外シェフ／多国籍料理）

ルシア・フレイタス 氏（海外シェフ／スペイン料理）

山口 杉朗 氏（海外シェフ／フランス料理）

深谷 宏治 氏（国内シェフ／世界料理学会inHAKODATE実行委員会代表、「レストランバスク」シェフ）

伊藤 勝康 氏（国内シェフ／「ロレオール田野畑」シェフ）

川手 寛康 氏（国内シェフ／「フロリレージュ」シェフ）

生江 史伸 氏（国内シェフ／「レフェルヴェソンス」シェフ）

鹿澤 靖幸 氏（地元シェフ（盛岡市）／「Ristorante SHIKAZAWA」シェフ）

福士 雅巳 氏（地元シェフ（盛岡市）／「ウサギボタニカ」シェフ）

山崎 純 氏（地元シェフ（山田町）／「和海味処いっぶく」シェフ）

宮川 徹 氏（地元シェフ（釜石市）／「和の膳みや川」シェフ）

岩佐 十良 氏（食のジャーナリスト／「自遊人」編集長）

中村 孝則 氏（食のジャーナリスト／コラムニスト）

君島 佐和子 氏（食のジャーナリスト／『料理通信』編集主幹）

後藤 友明 氏（岩手大学三陸海洋研究センター准教授）

石川 豊 氏（博士（農学・東北大学））

・参加者数 1,600人



三陸国際ガストロノミー会議

◆ 三陸美食サロン

国内外の著名なシェフと岩手のシェフとのコラボレーションにより、岩手の食材を使って創作した料理を岩手沿岸部の13市町村のレストランで提供

・会 場

洋野町「グリーンヒルおおの」× 東京「アンティカ・オステリア・デル・ポンテ」

久慈市「平庭山荘」× 東京「レストラン ラフィナージュ」

野田村「Osteria Vai-getsu おすてりあばいげつ」× 山形「アル・ケッチャーノ」

普代村「国民宿舎くろさき荘」× 新潟「里山十帖」

田野畑村「ロレオール田野畑」× 「ラ・カーサ・ディ・テツオオオタ」

岩泉町「レストラン岩泉」× 東京「レストランアニス」

宮古市「浄土ヶ浜パークホテル」× 山形「アル・ケッチャーノ」

山田町「和海 味処 いっぷく」× フランス「ボタニック・レストラン」

大槌町「割烹 岩戸」× 長野「TOEDA」

釜石市「和の膳 みや川」× 東京「レストラン・ロー」

住田町「すみたのだいどころ kerase」× 長野「職人館」

大船渡市「トラットリア ポルコ・ロツソ」× 東京「北島亭」

陸前高田市「和食 味彩」× 東京「エッセンス」

・参加者数 1,330人

三陸食材の発掘と情報発信：三陸と世界をつなぐ「食」のキャラバンの開催

三陸の「食」の豊かさを再発見するため、沿岸各地において、国内外の著名なシェフによる産地視察等を実施。

◆実施期間 2019年6月5日（水）～8日（土）

◆訪問先

・6月5日（水）

[洋野町] 種市南漁業協同組合宿戸漁業実行部会・

雲丹増殖溝（キタムラサキウニ・エゾバフンウニ）

原木乾しいたけ生産現場（原木乾しいたけ）

種市南漁業協同組合（漁協女性部の皆さん等との昼食交流）

種市漁港（天然ホヤ、海藻）

岩手県栽培漁業協会種市事務所（稚アワビ・稚ウニ・稚ナマコ）

種市高等学校（海洋開発科の実習施設、潜水実習見学等）

[久慈市] 久慈市短角牛基幹牧場（いわて短角牛、放牧地）

・6月6日（木）

[田野畑村] 机浜番屋群（さっぱ船アドベンチャーズ）

田野畑山地酪農牛乳（放牧地、牛乳、ヨーグルト、チーズ）



- [野田村] のだ塩工房（薪窯直煮製法のだ塩）
野田村漁業協同組合（荒海ホタテ、海藻）
涼海の丘ワイナリー（山ぶどうワイン、ワイナリー、漁業関係者の皆さん等との昼食交流）
- [普代村] カネシメ水産（活魚活け締め）
- [岩泉町] 小本川水門（東日本大震災津波と復興の歩み）
- ・ 6月7日（金）
- [宮古市] 宮古市魚市場（定置網、はえ縄漁、流通システム）
宮古市役所（東日本大震災津波と復興の歩み（市長表敬））
重茂漁業協同組合（ウニ・ワカメ・昆布・海藻・アワビ、環境、漁協女性部の皆さんとの昼食交流）
- [山田町] 大和水産（真鯛、片口鯛、煮干し、水産加工）
- [大槌町] ひょうたん島苔屋（燻製加工）
- [釜石市] 岩手県水産技術センター（海洋・水産・水産加工・環境・資源研究）
- ・ 6月8日（土）
- [大船渡市] 大船渡魚市場（1本釣り・棒受網・定置網・流通システム）
- [陸前高田市] 神田葡萄園（ワイン・飲料・ワイナリー）
広田湾漁業協同組合（イシカゲ貝・ホヤ・ホタテ、漁業関係者の皆さん等との昼食交流）
高田松原 一本松（東日本大震災津波と復興の歩み）
- [住田町] 住民交流拠点施設「まち家世田米駅」（レストラン併設型の住民交流施設）
- [大船渡市] 綾里漁協・恋し浜（ホタテ）
- [釜石市] 浜千鳥（日本酒醸造）

食の親善大使の任命

三陸国際ガストロノミー会議 2019 の出席者等を「食の親善大使」に任命し、県産食材の良さやこだわりをPR。

(2) 実施効果

- 国内外の著名なシェフやジャーナリスト等の参加による国際会議や食のキャラバンなどを実施し、三陸の優れた食材や食文化が、国内外のメディアやSNSを通じて広く情報発信されたことにより、三陸食材のブランド力向上に寄与することができました。
- 三陸美食サロンでは、沿岸13市町村のレストラン・飲食店において、国内外の料理人と地元の料理人が協働して、三陸の食材を利用した創作料理を提供しました。この経験により、地元料理人からは創作意欲が刺激されたなどの声も聞かれ、新たなご当地料理の創作のきっかけにつなげることができました。
- 沿岸各地で展開された美食サロンには、多くの来場者があり、交流人口の拡大や三陸地域の賑わいの創出につなげることができました。
- 地元食材の魅力発信及び交流人口の拡大に効果があったことから、市町村からも継続実施を求める評価がある一方、企画調整における連携が十分ではなかったとの指摘もあり、今後の取組継続に向けた課題と考えています。

いわて HAMA-MESHI プロジェクト

(1) 実施概要

沿岸 13 市町村の飲食店・宿泊施設等の参加により、三陸ならではの食を提供しました。また、参加店を巡るスタンプラリーも実施し、周遊促進を図りました。

スタンプラリーの周遊企画

◆参加店舗数 128 店舗



おふるまい企画

漁協女性部との連携により、三陸地域の食材や、昔から地域に伝わる調理法、家庭料理を提供。

◆九戸地区漁協女性部連絡協議会と連携したお振舞い

- ・開催日 2019年6月29日(土)
- ・会場 久慈市文化会館アンバーホール
※三陸防災復興展示会会場にて実施。
- ・提供メニュー及び食数 ホタテの汁物 400食



ホタテの汁物

◆気仙地区漁協女性部協議会と連携したお振舞い

- ・開催日 2019年7月20日(土)
- ・会場 大船渡市民体育館
※三陸防災復興展示会会場にて実施。
- ・提供メニュー及び食数 さんまのすり身汁 400食



さんまのすり身汁



〔九戸地区漁協女性部連絡協議会〕
「ホタテの汁物」のお振舞い



〔気仙地区漁協女性部連絡協議会〕
「さんまのすり身汁」のお振舞い

(2) 実施効果

- 沿岸 13 市町村の飲食店、宿泊施設等の関係機関の協働連携により、合計 128 施設の参加登録を得て、ガイドブック等により登録店舗を「食のおもてなし拠点」として発信したほか、三陸地域の豊かな農林水産物や食文化など、「三陸の食の魅力」の発信を強化しました。
- 参加登録店からは、会期中の来店客数が全般的に増加した等の評価を得ており、今回の取組による情報発信が、観光客等の来店の増加・維持に寄与し、三陸地域全体の賑わい創出が図られたものと考えます。
- 参加店舗情報を掲載した公式ガイドブックは、県外観光客から「ご飯を食べる際の参考になった」等の声や、参加店舗から「ガイドブックを見て来てくれるお客様がいる」との声があるなど、総じて好評であり、三陸地域の飲食店や土産品等の認知度向上に寄与することができました。
- スタンプラリーには合計 256 名の応募があり、そのうち、沿岸市町村を全て周遊するコンプリート賞の応募者が 20 名となるなど、三陸の「食」に因んだスタンプラリーが、三陸沿岸の周遊観光の動機付けとなり、周遊促進を図る効果的なツールとして機能したと考えられます。
- 企画開始当初、店舗ごとにスタンプの押印に関する解釈が異なり、参加者から「ガイドブック掲載メニューしか押印対象とならなかった」、「ガイドブック掲載メニューがなかった」などの御意見も寄せられたことから、事前に参加店舗との間でオペレーションの確認を十分に行っていく必要があったと考えています。
- 三陸防災復興展示会の会場で実施した漁協女性部と連携したお振舞いは、最も集客が予想される午前 11 時頃から午後 1 時頃までの時間帯を狙って実施したところ、特に家族連れの集客が多くあり、来場者に沿岸地域の食の文化を伝えることができました。

三陸プレミアムランチ列車

(1) 実施概要

三陸鉄道と連携し、「日本料理 賛否両論」の笠原将弘シェフ監修による「三陸プレミアムランチ列車」及びうほ・ほや・ほたてを使用した地元料理を提供する「三陸うほほ列車」を運行しました。

三陸プレミアムランチ列車

◆南三陸コース

- ・運行日 2019年6月15日(土)
- ・運行区間 盛駅発・宮古駅着
- ・参加者数 35人

◆北三陸コース

- ・運行日 2019年7月14日(日)
- ・運行区間 久慈駅発・宮古駅着
- ・参加者数 58人



三陸プレミアムランチ列車
「日本料理 賛否両論」笠原将弘シェフ

提供メニュー(一例)

三陸うほほ列車

- ・運行日 2019年6月30日(日)
- ・運行区間 久慈駅発・宮古駅着
- ・参加者数 41人



(2) 実施効果

- 多くのメディア取材や公式SNSで、三陸鉄道リアス線の全線開通のニュースとともに、三陸の豊かな食材や食文化が発信されました。
- 一流シェフ監修によるメニューにより、新たな三陸の食の魅力が発信されました。また、調理を担当した地元料理人からも三陸の食材の新たな魅力を発見したとの感想を伺うことができました。
- プロジェクト会期を含む今年4月から8月までの三陸鉄道利用者が、前年同期比で、倍以上に増えており、「プレミアムランチ列車」を含む本プロジェクトでの三陸鉄道関連企画の実施が同鉄道の魅力向上や三陸鉄道の利用促進、三陸地域の周遊促進の一助になったと考えられます。

“復興の今” 学習列車

(1) 実施概要

三陸鉄道と連携し、三陸鉄道の列車内外で震災学習をする「復興の今」学習列車」を運行しました。

新区間の震災学習列車

- ◆運行日 2019年6月8日(土)、7月6日(土)
- ◆運行区間 宮古駅～鶴住居駅間
- ◆参加者数
6月8日運行号 32人
7月6日運行号 40人



既存の震災学習列車の拡充

- ◆南三陸コース（釜石駅～盛駅間）
 - ・運行日 2019年6月1日(土)
 - ・参加者数 40人
- ◆北三陸コース（田野畑駅～久慈駅間）
 - ・運行日 2019年7月25日(木)
 - ・参加者数 26人



車内での震災学習の様子



車外での震災学習の様子

(2) 実施効果

- 工事中の防潮堤の堰堤等の復興インフラツーリズムを視察ルートに加えるなど、列車内外で三陸地域の復興の現状を発信することができました。参加者からも、「復興の現状が把握できた」との声が多数寄せられ、震災の風化防止に寄与することができました。
- プロジェクト会期を含む今年4月から8月までの三陸鉄道利用者が、前年同期比で、倍以上に増えており、「復興の今」学習列車」を含む本プロジェクトでの三陸鉄道関連企画の実施が同鉄道の魅力向上や三陸鉄道の利用促進の一助になったと考えられます。

三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」

(1) 実施概要

三陸鉄道と連携し、日本最長の第三セクター鉄道となった三陸鉄道リアス線 163 kmを夜通し走る「三陸縦断夜行列車」を運行しました。

「さんりくあさかぜ号」第一便

- ◆運行日 2019年7月20日（土）発
21日（日）着
- ◆運行区間 盛駅発→久慈駅着
- ◆参加者数 55人

「さんりくあさかぜ号」第二便

- ◆運行日 2019年7月27日（土）発
28日（日）着
- ◆運行区間 盛駅発→久慈駅着
- ◆参加者数 54人



出発式の様子



車内の様子（お座敷車両）



乗車証明書

(2) 実施効果

- ・ 全国的に夜行列車がほとんど運行されていないことから、企画段階から多くの旅行雑誌や新聞等メディアで報道されたほか、鉄道ファンによるSNS等を通じて話題となり、幅広く情報拡散されたことで、三陸鉄道の認知度向上に寄与しました。
- ・ プロジェクト会期を含む今年4月から8月までの三陸鉄道利用者が、前年同期比で、倍以上に増えており、「三陸縦断夜行列車」を含む本プロジェクトでの三陸鉄道関連企画の実施が同鉄道の魅力向上や利用促進の一助になったと考えられます。

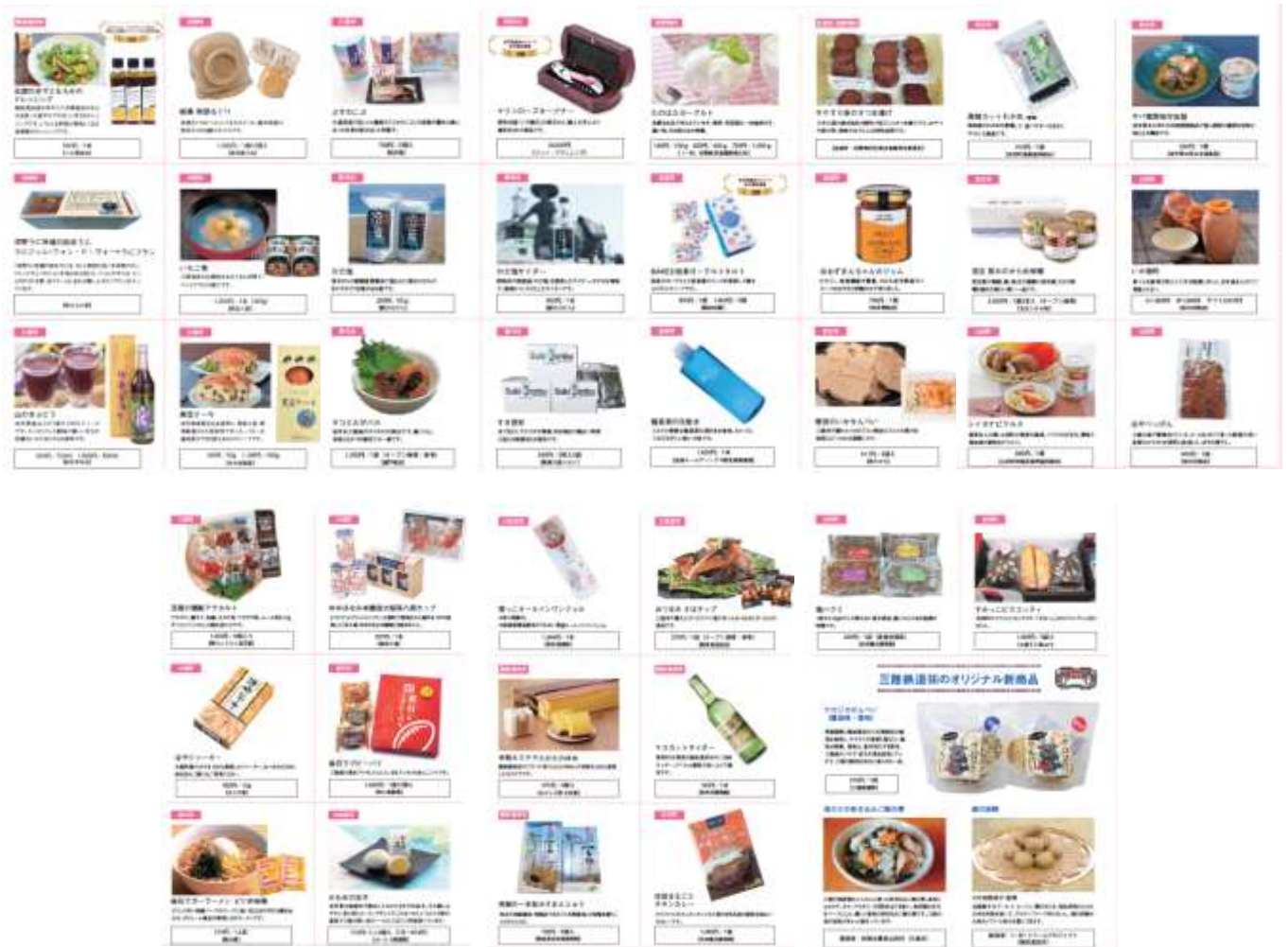
三陸お土産品プロモーション大作戦

(1) 実施概要

三陸の豊かな地域資源を活かした地場産品を本プロジェクト推奨お土産品として物産展等でPRしました。

また、プロジェクトの会期中は、岩手県産(株)の協力を得て、首都圏等で開催される物産展に販売コーナーを設置したほか、日本郵便の支援により首都圏・仙台市の郵便局物産展にも出展しました。

さらに、イオングループ、イトーヨーカドー、空港ターミナルビル、道の駅、川徳等の協力による販売コーナーも設置しました。



推奨お土産品一覧

物産展への出展

- J R 東日本 大宮駅産直市 2019年5月26日(日)～30日(木)
- 仙台中央郵便局 2019年5月30日(木)
- 川越丸広本店 2019年6月19日(水)～24日(月)

福岡わくわくマルシェ 2019年6月19日(水)～25日(火)
 三陸防災復興シンポジウム第2回会場(久慈市)
 2019年6月29日(土)
 立川郵便局 2019年7月1日(月)
 仙台藤崎百貨店 2019年7月4日(木)～9日(火)
 いわて絆まつり in 宮古 2019 会場(宮古市)
 2019年7月13日(土)～14日(日)
 新宿郵便局 2019年7月19日(金)
 三陸防災復興シンポジウム第3回会場(大船渡市)
 2019年7月20日(土)
 銀河プラザ 2019年6月1日(土)～8月7日(水)
 ららいわて 2019年6月1日(土)～8月7日(水)
 ネット通販 2019年6月1日(土)～8月7日(水)
 イオングループ、イトーヨーカドー、空港ターミナルビル、道の駅、川徳等
 会期に併せて、販売コーナー設置



物産展の様子

(2) 実施効果

- プロジェクトで推奨したお土産品のメーカーからは「商品の取扱店舗が増えた」、「販売数が伸びた」等の声が複数寄せられており、全体として販路拡大と販売促進に寄与することができたと考えます。

一例として、宮古水産高等学校と岩手県立大学の共同開発商品「サバ椎茸味付缶詰」は、本事業を契機として(株)三陸鉄道において新規販売されることとなりました。

- 首都圏等での物産展においては、定番商品だけでなく、知名度の低い商品も、プロジェクトの推奨品として一体的に販促活動を展開することで、三陸の地場商品の多様な魅力が発信でき、首都圏等における認知度向上に寄与することができました。
- さらに、物産展では、「三陸の商品を購入することで少しでも応援したい」、「こんなに商品がたくさんあったことを知らなかった」などの声をいただき、三陸の商品を広くPRするとともに、三陸の復興の現状も併せて伝える好機となりました。

いわて三陸学びの旅

(1) 実施概要

三陸DMOセンターが磨き上げた観光コンテンツを活かした旅行商品を造成し、復興の今や三陸の豊かな地域資源を学ぶ体験ツアーを実施しました。

また、旅行エージェントを招請し、地元の観光事業者との懇談を行うなど、誘客の立場から見た商品の磨き上げに向けた意見交換を実施しました。



東日本大震災津波伝承館（陸前高田市）



防災ワークショップ（大槌町）



サップ船アドベンチャーズ（田野畑村）



学ぶ防災
震災遺構 田老観光ホテル
（宮古市）

(2) 実施効果

- 造成した旅行商品の集客目標である1,000人泊に対して、6,331人泊の集客があり、三陸地域を中心とした誘客及び周遊促進に寄与したと考えられます。
- 造成した旅行商品には、三陸DMOセンターが関わった体験プログラムを含めたことにより、地域のガイドや体験施設等関係者に受入れのノウハウが蓄積され、ホスピタリティの向上につながるなど、受入態勢の強化とともに人材育成にも寄与したと考えられます。
- また、今後の販売促進に向けて、旅行エージェントを招請し、復興状況や三陸の地域資源を学ぶプログラムなどを紹介しました。この際、地元観光事業者との懇談の場も設け、既存の旅行商品や観光コンテンツに対する旅行エージェントからの意見を聴取し、今後の商品の磨き上げに向けたヒントを得ることができました。

いわて三陸ドライブツーリズム

(1) 実施概要

復興道路や復興支援道路などの整備の進捗による新たな交通ネットワークを実感できるよう、防災や三陸ジオパークなどのテーマ別に6つのモデルルートを構築して発信したほか、参加飲食店や道の駅の協力を得て、三陸ならではの当地グルメなどが味わえるドライブ周遊企画「いわて わんこ de まんぷくドライブパスポート」を実施しました。



ドライブ モデルルート (一例)



ドライブパスポート (チラシ)



わんこグルメ (一例)

(2) 実施効果

- 目標を上回るレンタカー利用者実績があり、モデルルートの構築や周遊促進企画の実施と、これらの情報の多言語展開により、インバウンドも含めた観光客のレンタカーの利用促進や交流人口の拡大に一定の役割を果たしたと考えられます。
- 新たな交通ネットワークの整備の進捗により、沿岸地域間や沿岸から内陸への効率的な移動が可能となっていることを捉え、本事業で構築したモデルルートや周遊企画については、「LINK SANRIKU 情報ステーション」や「HAMA-MESHI プロジェクト」などの一部拠点も含みながら実施したことから、周遊による本プロジェクトの他の事業への利用者拡大にも寄与したと考えられます。
- ドライブパスポートは、レンタカーを利用する県外からの観光客をターゲットとしたところであるが、今後においては、整備が進んだ道路網を活用した更なる周遊拡大に向け、パスポートの購入方法や参加店舗の拡大などの検討が必要と考えています。

オールいわて・祭りイベント（いわて絆まつり in 宮古 2019）

(1) 実施概要

◆開催日 2019年7月13日（土）
14日（日）

◆会場 宮古市

◆来場者数 延べ33,000人

◆概要

県内全33市町村の参加により、各郷土芸能団体が一堂に会し演舞を披露しました。

また、三陸の食材等を生かしたブース出展によるグルメ祭りも併催しました。



(2) 実施効果

- 県内全市町村の郷土芸能が一堂に会するとともに、県内各市町村長等の参加により、改めてオール岩手で復興のゴールに向かって進んでいく姿がメディアで大きく取り上げられ、全国からの支援に対する感謝の思いを発信することができました。
- 来場者からは「同じ神楽や鹿踊りでも地域によって個性があることが実感でき、素晴らしい」等との評価の声が、また、出演者からは「多くの観客がいる舞台上で演舞でき、喜ばしい」などの声があり、郷土芸能を通じた相互の文化交流が図られたものと考えられます。
- 併催されたグルメ祭りと合わせ、2日間で県内外から延べ33,000人の集客があり、各市町村の祭り・郷土芸能の情報発信や関心の醸成、さらに三陸地域への誘客促進に大きく貢献したと考えられます。



※いわて絆まつり in 宮古 2019 の模様は、「広報みやこ 2019年8月1日号No.335」
(https://www.city.miyako.iwate.jp/data/open/cnt/3/9485/1/190801_01-24.pdf) を御参照ください。

さんりく音楽祭 2019

(1) 実施概要

サントリーホールディングス㈱及び兵庫県との復興支援のつながりを生かし、世界的音楽家の佐渡裕さんとスーパーキッズオーケストラによる沿岸縦断コンサートや、東京都交響楽団による演奏会の開催のほか、メディアと連携した音楽イベントを開催しました。

佐渡裕さんとスーパーキッズオーケストラによる沿岸縦断コンサート

◆開催日 2019年7月31日（水）
～8月4日（日）

◆会場

7月31日（水）

大船渡市民会館 大ホール（大船渡市）

8月1日（木）

山田町中央公民館（山田町）、おしゃっち
（大槌町）、釜石市民ホール TETTO ホールA（釜石市）

8月2日（金）

アズビィホール（田野畑村）、宮古市民文化会館 大ホール（宮古市）

8月3日（土）

久慈市文化会館 大ホール（久慈市）

※久慈市消防団ラッパ隊、岩手県警音楽隊、
熊本県警音楽隊、警視庁音楽隊、
陸上自衛隊第9音楽隊が出演

8月4日（日）

JR種市駅前広場（洋野町）

※スーパーキッズオーケストラのみ

◆来場者数 延べ4,300人



東京都交響楽団による演奏会

弦楽四重奏

横山 和加子 さん (ヴァイオリン)
山本 翔平 さん (ヴァイオリン)
萩谷 金太郎 さん (ヴィオラ)
江口 心一 さん (チェロ)



◆開催日

2019年6月26日(水)～28日(金)

◆会場

6月26日(水) 野田村立野田小学校(野田村)
6月27日(木) 野田村生涯学習センター(野田村)、野田村保育所(野田村)
6月28日(金) いなり保育園(久慈市)

◆来場者数 105人

メディアと連携した音楽イベント

(三陸防災復興プロジェクト 2019×めざましライブ～日本お元気キャラバン in 大船渡～)

◆開催日 2019年6月22日(土)

◆会場 大船渡市民文化会館 大ホール(大船渡市)

◆来場者数 1,000人



(2) 実施効果

- 協演した地元の学生や音楽活動団体から、「今後の活動に向けてとてもよい経験、刺激となった」、「夢のような経験だった」など好意的な意見が多数寄せられ、次世代を担う若者が、音楽活動への「夢・憧れ」、「希望」を持つことに直接的に寄与することができました。
- 特に、佐渡裕さんとスーパーキッズオーケストラによるコンサートにおいては、これまで開催実績のない自治体も加え、ほぼ沿岸全域での公演が実現したほか、花巻市内の児童オーケストラとの協演が実現するなど、内陸部を含めた新たなつながりも生まれました。
- 音楽を通じて、継続した復興支援を続けてくださっている佐渡裕さんや東京都交響楽団とのつながりをさらに強化することができました。

さんりく文化芸術祭 2019

(1) 実施概要

宮城県石巻市で復興支援活動を行っている芸術団体（代表：小林武史さん）が中心となって運営している Reborn-Art Festival との協働連携によりオペラ「四次元の賢治-完結編-」（脚本：中沢新一さん、音楽：小林武史さん、出演：満島真之介さん他）を開催したほか、沿岸各市町村に設置した LINK SANRIKU 情報ステーションで、地域の創作アートの展示を実施しました。

Reborn-Art Festival との協働連携によるオペラ「四次元の賢治-完結編-」の上演

- ◆開催日 2019年7月13日（土）
- ◆会場 釜石市民ホール TETTO ホールA（釜石市）
- ◆来場者数 800人



創作アート展示

- ◆開催日 2019年6月1日（土）～8月7日（水）
- ◆会場 LINK SANRIKU 情報ステーションのうち、次の場所で展示
 - [洋野町] ひろの水産会館ウニーク
 - [久慈市] やませ土風館、久慈地下水族科学館もぐらんぴあ
 - [野田村] 三陸鉄道 陸中野田駅



- [普代村] 普代村観光センター（三陸鉄道普代駅）
- [田野畑村] 三陸鉄道 カルボナード島越駅
- [岩泉町] 岩泉町小本津波防災センター（三陸鉄道小本駅）
- [宮古市] 宮古市市民交流センター イーストピアみやこ
- [山田町] 三陸鉄道 陸中山田駅、やまだ観光物産館とつと
- [大槌町] 大槌文化交流センター おしゃっち
- [釜石市] シープラザ釜石
- [住田町] 住田町役場 交流プラザ
- [大船渡市] 大船渡市防災観光交流センター おおふなぼーと
- [陸前高田市] 陸前高田市コミュニティホール、アバッセたかた



展示の様子（一部）

(2) 実施効果

- 宮城県石巻市を中心に復興支援活動を行ってきた Reborn-Art Festival 実行委員会と連携して上演したオペラは、観覧者はもとより、上演した会場からも非常に高い評価を得るなど、上質な舞台公演の鑑賞機会を提供することができました。
- 交通拠点や観光、防災関連等の公的施設を作品展示会場にしたことによって、多くの観光客や一般市民に文化芸術の鑑賞機会を提供することができました。
- また、作品を発表する機会の創出により、地域の創作活動団体の創作意欲の向上や、新たな交流の機会の拡大につながりました。
- Reborn-Art Festival 実行委員会からは、本プロジェクトをきっかけとして、今後も岩手県における復興関連の協働連携事業を継続させたい意向を示していただき、内陸との連携も含めた新たな事業展開を見据え、当該芸術団体とのつながりの一層の強化、深化を図ることができました。

さんりく絆スポーツフェスタ

(1) 実施概要

スポーツの力を通じた三陸沿岸地域における交流拡大を促進するため、ラグビーワールドカップ 2019™の釜石開催や東京 2020 オリンピック・パラリンピックとの協働連携イベントを開催しました。

また、ソフトバンク株式会社が、復興支援の一環として取り組んでいるスポーツ交流事業「東北絆 CUP」を協働連携により実施したほか、マラソンのシドニー五輪金メダリストの高橋尚子さんらをお招きして、子供達等とのスポーツ交流イベントを実施しました。

RWC2019™釜石開催、東京 2020 オリンピック・パラリンピックとの協働連携イベント

◆「スポーツの力による復興」パネル展示 in 釜石鶴住居復興スタジアム

パシフィックネイションズカップ（日本対フィジー戦）に併せたブース出展の実施

- ・開催日 2019年7月27日（土）
- ・会場 釜石鶴住居復興スタジアム
（釜石市）
- ・来場者数 13,135人



◆オリンピックデーフェスタ [公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）連携イベント] （被災地の方々とオリンピック、アスリートがスポーツプログラムを通じて触れ合う交流イベント）

- ・開催日 2019年6月15日（土）～8月4日（日）
- ・会場及び参加アスリート

開催日	会場	参加アスリート
6月15日（土）	山田町B & G海洋センター体育館（山田町）	[スケート/フィギュアスケート] 小塚崇彦さん [自転車] 坂本章史さん [アイスホッケー] 小西あかねさん [アイスホッケー] 中村亜実さん [卓球] 藤沼亜衣さん [フェンシング] 淡路卓さん [野球] 大島公一さん
6月29日（土）	大槌町城山公園体育館（大槌町）	[サッカー] 海堀あゆみさん [スキー/ノルディック複合] 阿部雅司さん [バレーボール] 阪本清美さん [体操/新体操] 田中琴乃さん [野球] 大島公一さん

開催日	会場	参加アスリート
7月6日(土)	種市体育館(洋野町)	[スキー/アルペン] 柏木久美子さん [スケート/クロスカントリー] 石田正子さん [バレーボール] ヨーコ・ゼッターランド [スケート/スピードスケート] 黒岩敏幸さん [近代五種] 村上佳宏さん [カーリング] 平田洸介さん
7月13日(土)	岩泉町屋内多目的運動場(岩泉町)	[水泳/競泳] 中村真衣さん [バレーボール] 大山加奈さん [体操/体操競技] 鶴見虹子さん [フェンシング] 千田健太さん [カーリング] 山口剛史さん
8月4日(日)	住田町生涯スポーツセンター(住田町)	[陸上競技] 小林祐梨子さん [水泳/競泳] 宮下純一さん [バレーボール] 大谷佐和子さん [体操/トランポリン] 上山容弘さん [スケート/スピードスケート] 出島茂幸さん [卓球] 新井周さん [柔道] 杉本美香さん

・参加者数 590人



SoftBank 東北絆CUP2019 (競技: バスケットボール)

- ◆開催日 2019年7月14日(日)
- ◆会場 夢アリーナたかた(陸前高田市)
- ◆参加者数 250人



著名人とのスポーツ交流イベント

◆開催日 2019年7月28日(日)

◆会場 陸前高田市内

◆内容

- ① 高橋尚子さん(シドニーオリンピック 女子マラソン金メダリスト)を特別講師にお迎えしたランニングクリニック
- ② 福田正博さん(元サッカー日本代表)を特別講師にお迎えしたサッカークリニック
- ③ 小学校高学年(4年生～6年生)を対象にした、パラスポーツ運動会
- ④ 高橋尚子さんと福田正博さんによるトークイベント

◆参加者数 延べ1,050人



(2) 実施効果

- 復興支援に携わった高橋尚子さんなどのオリンピックをはじめとしたトップアスリートとの交流により、次世代を担う子供たちの夢・希望・憧れの醸成につなげることができました。
- オリンピアンと直接交流する機会の創出は、東京オリンピック・パラリンピックの開催機運醸成に寄与したものと考えられます。
- スポーツフェスタで実施した各種交流事業を通じて、復興支援への想いを有するトップアスリートや企業・団体とのつながりのさらなる深化を図ることができました。
- これまでの復興支援のつながりから、20名を超えるトップアスリートに応援メッセージを寄せていただき、「スポーツの力による復興」パネル展示 in 釜石鶴住居復興スタジアムにおいて、アスリートによる復興支援の模様を紹介したパネルとともに展示するなど、アスリートとのつながりの強化を図ることができました。
また、この展示は多くの来場者に御覧いただくとともに、来場者からも寄せ書きをいただくなど、復興支援のつながりの輪が更に広がりました。

－地域との連携による取組－

三陸応援団 元気お届けキャラバン

(1) 実施概要

社会福祉協議会や災害公営住宅自治会等と連携し、災害公営住宅等で地域のニーズに沿った交流事業を行い、住民の方々に元気や笑顔をお届けるとともに、コミュニティ形成に資する活動を実施しました。

◆会 場 沿岸市町村（会場の詳細は「実施会場一覧」のとおり。）

◆参加者数 延べ1,039人



住民の交流事業



軽スポーツ（卓球バレー）による交流

【実施会場一覧】

[順不同]

市町村名	実施会場
野 田 村	新町地区コミュニティセンター（屋外）
岩 泉 町	小本津波防災センター
宮 古 市	市営近内住宅集会所、市営津軽石住宅周辺花壇、田老山王地区自治会研修センター、鯉ヶ崎公民館、市営本町住宅集会室
山 田 町	山田中央団地公営住宅集会所、北浜アパート集会所、織笠アパート集会所
大 槌 町	県営屋敷前アパート集会所、大ケロー丁目町営住宅集会所
釜 石 市	県営嬉石第1アパート集会所、只越1号棟集会室、平田公営住宅（三陸鉄道を活用した交流）、天神町復興住宅集会所、上中島公営住宅集会所周辺（屋外）
大 船 渡 市	下館下アパート集会室
陸前高田市	市営住宅脇ノ沢団地集会所、県営栃ヶ沢アパート集会所及び周辺（屋外）、市営住宅中田団地駐車場前、市営住宅今泉団地集会所、陸前高田市コミュニティホール

(2) 実施効果

- キャラバン参加者や関係団体から、「久しぶりに笑った」、「楽しかった」、「普段地域の集まりに参加しない人が参加した」等、一様に高い評価を得ており、キャラバンをきっかけとして自主的に活動が継続される等、コミュニティ形成の促進や活性化に大きな効果がありました。
- キャラバンで実施する内容は、自治会や社会福祉協議会等の方々と話し合いながら決めたことから、地域の実情に応じた内容となり、持続的な交流のきっかけを作ることができました。
- 復興支援を継続している多数の著名人（吉本興業タレント、奥野ひかる氏、佐野より子氏、他）にキャラバンに参加いただいたほか、多数のトップアスリートや文化人*にも本プロジェクトの開催趣旨に賛同を得て応援メッセージをいただくことができました。これらのメッセージは、公式HPやSNS等を通じて全国に向けて発信、拡散され、三陸地域に対する関心が喚起されました。
 - * 大谷翔平選手（MLB）、リーチマイケル選手（ラグビー日本代表）、サンドウィッチマン（タレント） 他多数
- キャラバンに携わった多くの関係者から継続した支援の意向が示されるなど、復興支援を機に生まれたつながり・絆の更なる深化が図られました。

(1) 実施概要

沿岸 13 市町村の協力により、三陸鉄道駅舎、道の駅、観光防災関係施設等に情報発信拠点を設置（合計 18 か所）するとともに、株式会社ポケモン及び株式会社ナイアンティックと連携した周遊企画を実施しました。



情報発信拠点の設置

- [洋野町] ひろの水産会館ウニーク
- [久慈市] やませ土風館、久慈地下水族科学館もぐらんぴあ
- [野田村] 三陸鉄道 陸中野田駅
- [普代村] 普代村観光センター（三陸鉄道普代駅）
- [田野畑村] 三陸鉄道 カルボナード島越駅
- [岩泉町] 岩泉町小本津波防災センター（三陸鉄道小本駅）
- [宮古市] 宮古市市民交流センター イーストピアみやこ
- [山田町] 三陸鉄道 陸中山田駅、やまだ観光物産館とつと
- [大槌町] 大槌文化交流センター おしゃっち
- [釜石市] いのちをつなぐ未来館、釜石市民ホール TETTO、シープラザ釜石
- [住田町] 住田町役場 交流プラザ
- [大船渡市] 大船渡市防災観光交流センター おおふなぼーと
- [陸前高田市] 陸前高田市コミュニティホール、アバッセたかた



周遊企画の実施

- ◆株式会社ポケモンと連携したスタンプラリー「さんりくを行く！岩手県×イシツブテ スタンプラリー」（2019 年 6 月 1 日（土）～8 月 7 日（水））を実施しました。
- ◆株式会社ポケモン、niantic, inc（ナイアンティック）と連携し、スマートフォン向け位置情報ゲーム『ポケモンGO』を使用したイベント「三陸鉄道リアス線開通記念 ポケモンGO in さんりく」（2019 年 7 月 1 日（月）～7 月 15 日（月・祝））と、「ポケモンGO ARフォトコンテスト」（2019 年 6 月 1 日（土）～8 月 7 日（水））を開催しました。



(2) 実施効果

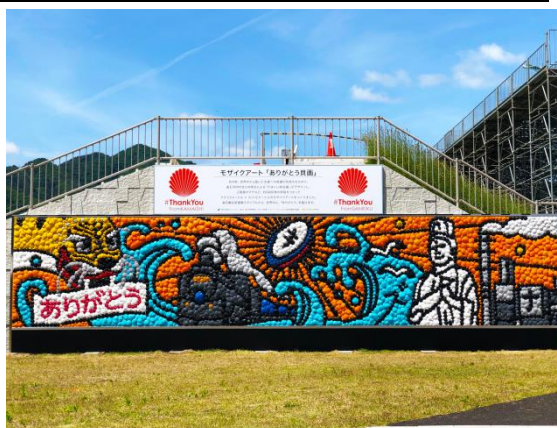
- 復興情報を発信するパネル展示や、地域住民によるアート作品の展示（さんりく文化芸術祭 2019）のほか、地域の観光・イベント情報の発信など、各市町村が創意工夫を凝らしたことによって、本プロジェクトの情報のみならず、総合的な観光情報の発信を行うことができました。
- アート作品の展示については、各会場とも独自の展示内容となるよう工夫を凝らしたことから、今回の展示企画により地域住民の創作意欲が向上したとの評価を各市町村から多数得ており、住民の地域への参画意識の向上や地域活性化に寄与したと考えられます。
- 株式会社ポケモンと連携したスタンプラリー企画や三鉄フリー切符などの実施、株式会社ポケモン及び niantic, inc と連携したモバイルゲーム企画の沿岸開催により、観光客等の周遊や SNS 等を通じた情報拡散が図られました。
- なお、株式会社ポケモンや niantic, inc との連携は、メディアや SNS 等で話題となり、岩手三陸の認知度向上に多大な効果があったと考えられます。

ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」

(1) 実施概要

釜石市内の小中学生で構成する「かまいし絆会議」の子供達がデザイン・制作した三陸産ホタテの貝殻モザイクアートを、釜石鵜住居復興スタジアムに設置し、国内外からの復興支援に対する感謝のメッセージを発信しました。

なお、モザイクアートに使用したホタテの貝殻は、県内外で貝殻着色イベントを開催し、多くの方に御参加いただきました。



制作に参加する釜石市内の小中学生



県外イベントで制作に参加する学生等



釜石市での制作イベント



釜石市での制作イベント参加者の皆さん

(2) 実施効果

- モニュメントの制作に際しては、釜石市内の全小中学生で構成された「かまいし絆会議」が「復興支援への感謝」や「復興への思い」を表すデザインを考え、実際の制作活動にあたっては、釜石市民はもとより、県内外の大勢の人々の協働参画を得て取り組んだものであり、「復興支援への感謝」と復興を支援してくださる方々とのつながりや、一層の関係の強化を図ることができました。
- また、様々な機会を活用した着色イベントやモニュメントの制作イベントに携わった地域住民等の全ての人々の一体感の醸成に寄与したと考えられます。

- 本モニュメントは、釜石鵜住居復興スタジアムバックスタンド側面に常設し、プロジェクト会期中はもとより、ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会開催期間中、国内外の来訪客に御覧いただくほか、メディアやSNS等による発信が行われ、復興支援への感謝の想いを国内外に発信することができたと考えます。

三陸ステーションガーデンプロジェクト

(1) 実施概要

沿岸地域の団体・若者等の参加・協働により、三陸鉄道宮古駅及び久慈駅をガーデニングで装飾し、花と緑にあふれるステーションガーデンを創作したほか、野田村内の三陸鉄道沿線に花畑による新たな車窓風景モデルの創作に取り組みました。

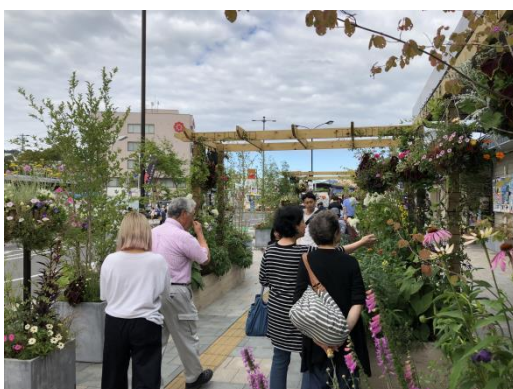
三陸鉄道の駅のステーションガーデン化

三陸鉄道宮古駅及び久慈駅をガーデニングで装飾し、花と緑にあふれるステーションガーデンを創作しました。

宮古駅では、ガーデニングの専門家や「昭和通りのおかみさんおもてなしたい」の指導のもと、宮古市立宮古小学校3年生がプランターへ寄せ植えを実施しました。

また、久慈駅には、岩手県立久慈東高等学校環境緑化系列コース2年生及び3年生が実習で制作したプランターで装飾しました。

- ◆制作 2019年5月
- 展示 2019年6月1日(土)～8月7日(水)



宮古駅前のガーデニングの様子



久慈駅前のガーデニングの様子



県立久慈東高校の生徒による制作



宮古市立宮古小学校児童による制作

三陸鉄道沿線における花畑による新たな車窓風景モデルの制作

野田村三陸夢アート実行委員会が主催し、三陸防災復興プロジェクト 2019 の一環としてシバザクラの植栽イベント「シバザクラいっぱいプロジェクト！」を野田村十府ヶ浦公園で実施し、花畑（シバザクラ）による新たな車窓風景モデルを創作しました。

植栽イベントには、地域住民のほか、これまで野田村の復興支援に携わってきた方や準村民制度登録者など、野田村との関わりのある約 250 人が参加しました。



(2) 実施効果

- 観光客等の駅利用者、地域住民から高い評価を得るとともに、地元メディアで多数報道され、駅舎や沿線の景観づくりによる三陸鉄道の新たな魅力づくりや、駅見学者も含む三鉄利用客数の拡大に一定程度寄与したと考えられます。
- また、今回のガーデニングが駅前の魅力創出につながったとして、地元住民の有志が本プロジェクト会期後もガーデニングを引き継ぎ、三陸鉄道駅前の魅力づくりが継承されるなど、本事業が三陸鉄道駅前の賑わい創出の一翼を担うことができました。

3 参加・協働・連携の取組

(1) 団体・企業との協働（協賛）

本プロジェクトの趣旨に賛同いただいた企業・団体 12 社から、協賛金や役務等の提供のほか、連携事業としての実施など多くの御協力をいただきました。

【内訳】

① プロジェクトパートナー（8社）

[順不同]

企業・団体名	内 容
サントリーホールディングス(株)	【さんりく音楽祭 2019】 佐渡裕さんとスーパーキッズオーケストラによるコンサートの実施に係る事業連携
ソフトバンク(株)	【さんりく絆スポーツフェスタ】 SoftBank 東北絆 CUP2019 の実施に係る事業連携
日本郵便株式会社(株) 東北支社	【LINK SANRIKU 情報ステーション】 県内外郵便局での情報発信協力 【三陸お土産プロモーション大作戦】 県外郵便局での物産展の実施協力
東日本旅客鉄道(株) 盛岡支社	【LINK SANRIKU 情報ステーション】 主要駅における情報発信、スタンプラリーへの協力
(株)ポケモン	【LINK SANRIKU 情報ステーション】 「ポケモン GO」等のコンテンツ活用やスタンプラリーによる周遊企画の実施に係る事業連携
(株)ナイアンティック	【LINK SANRIKU 情報ステーション】 「ポケモン GO」等のコンテンツ活用による周遊企画の実施に係る事業連携
一般社団法人 岩手県建設業協会	300 万円の協賛金提供
みちのくコカ・コーラボトリング(株)	事業告知資材の製作、自動販売機及び小売店での PR 活動に係る役務提供

② オフィシャルスポンサー（3社）

[順不同]

企業・団体名	内 容
(株)アイシーエス	100 万円の協賛金提供
岩手県土地改良事業団体 連合会	100 万円の協賛金提供
三陸土建(株)	100 万円の協賛金提供

③ プロジェクト支援企業（1社）

企業・団体名	内 容
岩手県信用保証協会	10 万円の協賛金提供

【参考：協賛企業の種類】

企業協賛の種類	特典内容
<u>プロジェクトパートナー</u> ①300万円以上の協賛金を提供する企業・団体 ②300万円相当額以上の役務・物品等を提供する企業・団体 ③本プロジェクト事業を協働して実施する企業・団体	①「プロジェクトパートナー」呼称使用权 ②プロジェクト名称等の広告使用权及びマーチャンダイジング権 ③公式ウェブサイト等への企業・団体名の掲出及びリンク設定 ④中核となる事業におけるPR看板等への企業・団体名の掲出 ⑤各種広報媒体への広告 ⑥中核となる事業におけるPRブース出展権
<u>オフィシャルスポンサー</u> ①100万円以上 300万円未満の協賛金を提供する企業・団体 ②100万円相当額以上の役務・物品等を提供する企業・団体	①「オフィシャルスポンサー」呼称使用权 ②プロジェクト名称等の広告使用权及びマーチャンダイジング権 ③公式ウェブサイト等への企業・団体名の掲出及びリンク設定 ④各種広報媒体への広告
<u>プロジェクト支援企業</u> ①5万円以上 100万円未満の協賛金を提供する企業・団体 ②5万円相当額以上の役務・物品等を提供する企業・団体	①「プロジェクト支援企業」呼称使用权 ②プロジェクト名称等の広告使用权及びマーチャンダイジング権 ③公式ウェブサイト等への企業・団体名の掲出

(2) 若者の参画

本プロジェクトの事業実施に当たっては、県内外の児童・生徒・学生など、多くの若者の協力を得ることができました。

若者の参画を得て実施した主な事業は、次のとおりです。

事業名	内 容
オープニング セレモニー	<u>若者による復興の取組報告</u> TOMODACHI イニシアチブの支援プログラム 卒業生 吉浜 知輝 さん <u>運営支援</u> 岩手わかすフェス実行委員会
クロージング セレモニー	<u>スピーチ「未来への希望」</u> ・岩手県立高田高等学校生徒 ・NPO 法人 SET 上田 彩果 さん ・一般社団法人 SAVE TAKATA 坪井 奈穂美 さん <u>追悼の合唱及びクロージングコンサート</u> ・岩手県立不来方高等学校音楽部 <u>復興・地域づくり活動展示</u> ・陸前高田グローバルキャンパス（立教大学、岩手大学）

事業名	内 容
三陸防災復興シンポジウム (第4回)	<u>郷土芸能（中野七頭舞）披露</u> ・岩手県立岩泉高等学校生徒 <u>合唱発表</u> ・宮古市立河南中学校生徒
三陸防災復興展示会 (第4回体験型展示会)	<u>津波模型の実演展示</u> ・岩手県立宮古工業高等学校生徒
三陸ジオパーク フォトロゲイ ニングフェス ティバル	<u>運営支援</u> ・東北大学オリエンテーリング部 <u>広報協力</u> ・宮城学院女子大学オリエンテーリング部
三陸お土産プロ モーション大作 戦	<u>商品の販売支援</u> ・岩手県立大学 学生有志「復興 girls&boys*」
さんりく音楽祭 2019	<u>佐渡裕さんとスーパーキッズオーケストラによるコンサート</u> ○山田公演（8月1日） ・山田町立山田中学校吹奏楽部 ・岩手県立山田高等学校吹奏楽部 ○大槌公演（8月1日） ・大槌町内児童有志 ○釜石公演（8月1日） ・花巻金星少年少女オーケストラ ○田野畑公演（8月2日） ・田野畑村立田野畑小学校スクールバンド ○宮古公演（8月2日） ・宮古市立第二中学校吹奏楽部 ・宮古市立河南中学校吹奏楽部、合唱部 ・岩手県立宮古高等学校吹奏楽部 ○久慈公演（8月3日） ・久慈市児童合唱団 <u>三陸防災復興プロジェクト×めざましライブ～日本お元気キャラバン in 大船渡</u> ・大船渡市立赤崎中学校生徒
三陸応援団 元気お届けキャラ バン	・岩手大学 学生有志「復興 girls&boys*」 ・弘前大学 学生有志
ホタテモザイク アート「ありが と貝画」	・「かまいし絆会議」（釜石市内の小中学生で構成）の児童・生徒 ・「岩手わかすフェス実行委員会」（東京から岩手を盛り上げたい若者等が集う委員会）に参画する若者
三陸ステーショ ンガーデンプロ ジェクト	<u>三陸鉄道宮古駅のステーションガーデン化</u> ・宮古市立宮古小学校3年生の児童 <u>三陸鉄道久慈駅のステーションガーデン化</u> ・岩手県立久慈東高等学校環境緑化系列コース2年生及び3年生の生徒

(3) NPO、コミュニティ団体、地域等との連携

本プロジェクトの事業実施に当たっては、NPO 法人、コミュニティ団体、地域の方々の協力を得て、連携して事業展開を行いました。

主な連携事業は次のとおりです。

[順不同]

事業名	連携内容及び協力団体
オープニング セレモニー	<u>食のイベント「さんりくるっと」の開催</u> さんりくるっと実行委員会（釜石市、気仙沼市、大船渡市、陸前高田市、南三陸町、住田町、大槌町の有志で構成）
クロージング セレモニー	<u>復興・地域づくり活動展示</u> 一般社団法人 SAVE TAKATA、NPO 法人 SET、NPO 法人りくカフェ、NPO 法人陸前たがだ八起プロジェクト、NPO 法人高田松原を守る会、NPO 法人まあむたかた
いわて HAMA-MESHI プロジェクト	<u>三陸地域の家庭料理の提供</u> 岩手県信用漁業協同組合連合会 九戸地区漁協女性部連絡協議会、気仙地区漁協女性部協議会
三陸鉄道一貫 運行記念「三陸縦 断夜行列車」	<u>おもてなし企画の協力団体</u> はたてデッキ、久慈広域観光協議会、北リアスの会
さんりく音楽祭 2019	<u>佐渡裕さんとスーパーキッズオーケストラによるコンサート出演団体</u> ・大船渡公演（7月31日） 大船渡さんご合唱団、ぷなと合唱団、ゆうゆう BAND ・山田公演（8月1日） コーラス泉の会、町民合唱団 ・釜石公演（8月1日） 釜石吹奏楽団、くらぶ海音 ・久慈公演（8月3日） 北いわて合唱団
さんりく 文化芸術祭 2019	<u>創作アート展示団体</u> ○洋野町 ひろの ○久慈市 浜の母ちゃんサークル ○野田村 さをりひろば野田、羽希羽季クラブ ○普代村 和紙ちぎり絵教室、普代参拾伍番館、 おりがみサークルしおかぜの会 ○田野畑村 NPO 法人ハックの家 ○岩泉町 小本いきがいくらぶ

事業名	連携内容及び協力団体
さ ん り く 文 化 芸 術 祭 2019	<p>○宮古市 宮古美術協会、みやこフォトクラブ、宮古書道協会、NPO 法人津波太郎</p> <p>○山田町 夢花クラブ・山田、長岡弘次</p> <p>○大槌町 大槌クラフトバンドを楽しむ会「ほほえみ」、おおちゃん手編みサークル、ままりば、大槌町復興刺し子プロジェクト、大槌ちぎり絵教室</p> <p>○釜石市 絵画クラブ彩美会、釜石市民絵画教室、切り絵サークル「はまゆり」</p> <p>○住田町 なつかしい未来創造株式会社「陸前高田アーティスト・イン・レジデンス」、Home of Wisdom</p> <p>○大船渡市 大船渡写真クラブ、七虹会と三洋会、静月書院</p> <p>○陸前高田市 陸前高田商工会女性部、中田団地ゆりの会、なつかしい未来創造株式会社「陸前高田アーティスト・イン・レジデンス」、サロルンカムイプロジェクト、Home of wisdom</p>
三 陸 応 援 団 元気お届けキャラバン	<p><u>宮古市内におけるキャラバン実施支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮古市社会福祉協議会 ・3.11 いわて協会ネットワーク ・傾聴ボランティア支え愛

(4) 市町村等関係機関との連携

市町村においては、実行委員会構成員として実行委員会主催事業への参画のほか、プロジェクトの事業と軌を一にして、防災復興に係る特別展示や地区防災に係る取組、三陸地域の食のイベントの開催など、復興の取組の発信や三陸地域の多彩な魅力を発信する事業を関連事業として実施したところです。

また、県等関係機関においても、復興の現場見学会や、周遊につながる企画の実施など、各プロジェクト事業と連携して事業を実施したところです。

これら関連事業については、会期中にとどまることなく実施しており、特に、会期中は、101件の事業が関連事業として展開されました。

[会期中の主な関連事業]

事業・イベント名	開催地域
I 復興の取組の発信・防災の啓発	
防災展示	宮古市
東日本大震災大津波写真展 2019	大船渡市
東日本大震災津波映像 「荒れ狂う海～津波常習地・大船渡～」公開	大船渡市
津波避難訓練	久慈市
鉄の歴史観 2019 企画展「災害と製鉄所」	釜石市
東日本大震災復旧・復興支援活動フォーラム ～震災の絆を活かした復興まちづくり～	釜石市
三陸防災復興展示会	住田町
安渡地区アーカイブ展	大槌町
体験型防災学習	大槌町
復興まちびらき	山田町
復興の現場見学会	久慈地域
再エネ体験バスツアー	県北沿岸地域
いわての復興教育スクール	県内公立学校
県立病院オープンホスピタル	沿岸県立病院
II 三陸地域の魅力発信	
宮古夏まつり	宮古市
三陸・大船渡夏まつり	大船渡市
べっぴんよ市	久慈市

事業・イベント名	開催地域
久慈みなと・さかなまつり	久慈市
チャオチャオ陸前高田道中おどり	陸前高田市
うごく七夕まつり、気仙町けんか七夕まつり	陸前高田市
さんりくるっと ※オープニングセレモニー同時開催	釜石市
釜石よいさ	釜石市
住田町夏まつり	住田町
おしゃっち1周年記念イベント	大槌町
山田パドルフェス	山田町
龍泉洞夏まつり	岩泉町
番屋体験博覧会「ばんぱく」	田野畑村
神楽の日 青の国編 鶉の鳥神楽定期公演	普代村
ビーチヨガ	普代村
野田村プチよ市	野田村
たねいちウニまつり	洋野町
さくらサミット2019in 洋野	洋野町
フォトコンテスト	全域
1964年東京オリンピック開催時の聖火台を活用したイベント	宮古市・釜石市・陸前高田市・洋野町
さんりく“海”を学ぼうフェスタ in 宮古	宮古市
深海調査研究船「かいいい」一般公開	宮古市
いわてアパレルコレクション	宮古市
三陸グルメ祭り ※オール岩手・祭りイベント（いわて絆まつり2019in 宮古）同時開催	宮古市
いわて ICT フェア 2019in 三陸・久慈	久慈市
農福連携マルシェ	大船渡市
いわて農林水産物機能性活用研究会シンポジウム	釜石市
花のみちプロジェクト	釜石市・大槌町・山田町・大船渡市・陸前高田市

[プロジェクト実施に対する市町村の主な意見]

ア 総括的意見

- 道の駅や観光施設等の客数が前年度比で増加しており、顕著な効果が見られたと認識している。
- 一般観光客数が伸びるなど、交流人口拡大につながった。
- 市町村単独では実施できない規模のイベントができた。
- 例年の祭り等の時期と重ねての実施により、集客効果が上がった。
- 実行委員会主催事業と市町村等の関連事業を一体化した取組の中で、風化防止や防災意識の啓発に寄与できたのではないか。
- 交通インフラの整備が進んだことにより、事業に関連付けて近隣市町村に行き来する機会になった。
- 来年度も、予算を縮小してでも続けてほしい。
- 今後についてもある程度のスパンを決めて継続してほしい。
- 実施については、事務局である県が中心となって調整を進めてくれたと感じている。今後においては、もっと市町村が参画できる仕組みとするなど、市町村としてもできることをやっていきたい。
- 三陸各地で開催されているイベントと抱き合わせで行うことも大事である。

イ 個別事業に対する意見

- オールいわて・祭りイベント（いわて絆まつり in 宮古 2019）は、今まで見たことのない芸能や、意外に見る機会のなかった近隣の芸能に触れる機会になり良かった。
- さんりく音楽祭 2019 で実施した佐渡裕さんとスーパーキッズオーケストラによる沿岸縦断コンサートは良かった。食や景色だけで人を呼び込むことは難しいので、きっかけとなるイベントは大切である。
- 美味えがすと三陸「Gastronomy SANRIKU 構想」推進プロジェクトでは、地元の食材にスポットが当たった。継続性のあるものが必要であることから、続けてほしい。
- 三陸ジオパーク フォトロゲイニングフェスティバルは継続したい。歩き、走る中で地域を知ってもらうことができる。また、口コミにも期待している。

(5) 事業別主催・共催・後援団体等一覧

事業名	主催・共催・後援団体等
オープニングセレモニー	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 共催：釜石市、後援：復興庁
クロージングセレモニー	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 共催：陸前高田市、後援：復興庁
三陸防災復興シンポジウム	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 共催： 第1回 釜石市、大槌町、岩手大学地域防災研究センター 第2回 久慈市、普代村、野田村、洋野町 第3回 大船渡市、陸前高田市、住田町 第4回 宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村 後援：復興庁
三陸防災復興展示会	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 共催： 第1回 釜石市、大槌町 第2回 久慈市、普代村、野田村、洋野町 第3回 大船渡市、陸前高田市、住田町 第4回 宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村 後援：復興庁
三陸ジオパーク ワクワクフェスタ	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会
三陸ジオパーク ワクワクフェスタ [親子釣りフェスタ&ジオツアー]	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 協力：グローブライト株式会社、岩手県立水産科学館、崎 山貝塚縄文の森ミュージアム、IBC 岩手放送
三陸ジオパーク フォトロゲイニングフェスティバル	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 共催：釜石市、大槌町、普代村、野田村 協力：株式会社かまいし DMC、釜石観光物産協会、大槌町 観光交流協会、普代村観光協会、野田村観光協会、三 陸ジオパーク推進協議会 監修：一般社団法人日本フォトロゲイニング協会
美味えがすと三陸「-Gastronomy SANRIKU-構想」推進プロジェクト	主催：三陸国際ガストロノミー会議 2019 実行委員会 共催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会
いわてHAMA-MESHI プロジェクト	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会
三陸プレミアムランチ列車	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 協力：三陸鉄道株式会社
“復興の今” 学習列車	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 協力：三陸鉄道株式会社
三陸鉄道一貫運行記念 「三陸縦断夜行列車」	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 協力：三陸鉄道株式会社
三陸お土産プロモーション大作戦	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 協力：イオンスーパーセンター(株)、イオンリテール(株)、 (株)イトーヨーカ堂、岩手県空港ターミナルビルテナント会、 岩手県「道の駅」連絡会、(株)川徳、(株)かわとく壺番館、 日本郵便(株)

事業名	主催・共催・後援団体等
いわて三陸学びの旅	主催：いわて観光キャンペーン推進協議会 共催：三陸防災復興プロジェクト2019 実行委員会 協力：三陸DMOセンター
いわて三陸ドライブツーリズム	主催：三陸防災復興プロジェクト2019 実行委員会
オールいわて・祭りイベント	主催：いわて絆まつり in 宮古2019 実行委員会 共催：三陸防災復興プロジェクト2019 実行委員会 協力：公益財団法人岩手県市町村振興協会、 岩手県市長会、岩手県町村会
さんりく音楽祭2019 [佐渡裕さんとスーパーキッズ オーケストラによるコンサート]	主催：三陸防災復興プロジェクト2019 実行委員会、兵庫 県立芸術文化センター、大船渡市、山田町、大槌町、 釜石市、釜石市民ホール、田野畑村、宮古市、宮古市 教育委員会、久慈市、久慈市教育委員会、洋野町 共催：岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテ レビ、岩手朝日テレビ、「こころのビタミンプロジェクト」 プロジェクト・パートナー： サントリーホールディングス<サントリー東北サンサ ンプロジェクト>、ピアス株式会社 プロジェクト・サポーター： 甲南学園、早駒運輸 神戸シーバス、En 女医会、A I G 損保
さんりく音楽祭2019 [東京都交響楽団による演奏会]	主催：公益財団法人東京都交響楽団 共催：三陸防災復興プロジェクト2019 実行委員会、野田 都響ファンクラブ 後援：野田村
さんりく音楽祭2019 [メディアと連携した音楽イベ ント]	主催：三陸防災復興プロジェクト2019 実行委員会、フジ テレビジョン 企画制作：めんこいテレビ、協力：アソビシステム
さんりく文化芸術祭2019	主催：三陸防災復興プロジェクト2019 実行委員会
さんりく文化芸術祭2019 [Reborn-Art Festival との協働連携 によるオペラ「四次元の賢治」の上演]	主催：三陸防災復興プロジェクト2019 実行委員会 企画制作：Reborn-Art Festival 実行委員会、株式会社LIVE 後援：宮城県・石巻市
さんりく絆スポーツフェスタ [「スポーツの力による復興」パネル 展示 in 釜石鶴住居復興スタジアム]	主催：三陸防災復興プロジェクト2019 実行委員会 共催：RWC2019 釜石開催実行委員会
さんりく絆スポーツフェスタ [オリンピックデーフェスタ]	主催：公益財団法人日本オリンピック委員会 共催：三陸防災復興プロジェクト2019 実行委員会 後援：スポーツ庁、岩手県 協力：アシックスジャパン株式会社 (山田) 山田町、山田町教育委員会、山田町体育協会 (大槌) 大槌町、大槌町教育委員会、大槌町体育協会 (洋野) 洋野町、洋野町教育委員会 (岩泉) 岩泉町、岩泉町教育委員会、岩泉町スポーツ推進 委員協議会、岩泉町体育協会 (住田) 住田町、住田町教育委員会、住田町体育協会、住 田町スポーツ推進委員協議会

事業名	主催・共催・後援団体等
さんりく絆スポーツフェスタ [SoftBank 東北絆 CUP2019]	主催：ソフトバンク株式会社 共催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会
さんりく絆スポーツフェスタ [著名人とのスポーツ交流イベント]	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 後援：陸前高田市、陸前高田市教育委員会 (高橋尚子ランニングクリニック) 後援：一般社団法人岩手県陸上競技協会 協賛：アシックスジャパン株式会社 (福田正博サッカークリニック) 後援：公益社団法人岩手県サッカー協会 協力：いわてグルージャ盛岡 (パラスポーツ運動会) プログラム提供：日本財団パラリンピックサポートセンター
三陸応援団 元気お届けキ ャラバン	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会
LINK SANRIKU 情報ステーション [情報発信拠点の設置]	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会
LINK SANRIKU 情報ステーション [周遊企画の実施]	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 協力：ポケモンだいすきクラブ 株式会社ポケモン、株式会社ナイアンティック
ホタテモザイクアート「あり がとう貝画」	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 共催：釜石市、釜石市教育委員会、ラグビーワールドカッ プ 2019 釜石開催実行委員会、かまいし絆会議、スマ イルとうほくプロジェクト
三陸ステーションガーデンプロジェクト [三陸鉄道の駅のステーションガーデン化]	主催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 共催：三陸鉄道株式会社、久慈市、宮古市
三陸ステーションガーデンプロジェクト [新たな車窓モデルの制作]	主催：野田村三陸夢アートプロジェクト実行委員会 共催：三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会

4 広報の実施状況

広報の実施に当たっては、機運醸成、参画の促進に向けた情報発信や、集客に向けた戦略的な情報発信（個別事業に応じた情報発信対象エリアやターゲットに応じた観光・地域情報との連携した発信等）などのほか、適切なタイミングでの広報を進めていきました。

(1) 情報発信の主な手段

① 機運醸成に向けた開催概要や会期等の情報発信

- ・公式ホームページとSNS（facebook、twitter）を活用した発信
- ・動画による県内外のイベントでの発信
- ・新聞広告、テレビCMやラジオCMを活用した発信
- ・「LINK SANRIKU 情報ステーション」のほか、道の駅などの交通拠点や郵便局、大規模商業施設、市町村等の公共施設を「まるごと情報発信拠点」とし、ポスター掲出、チラシやガイドブック等を配架
- ・三陸鉄道、IGR、JR東日本盛岡支社管内の施設、岩手県交通及び岩手県北バスへの広告掲出
- ・都営地下鉄や首都圏JRでの車両中吊り広告、駅中広告の実施のほか、FDAやIBEXエアラインズでの広告実施
- ・三陸鉄道主要駅と県合同庁舎へのカウンタダウンボードの設置

② 各事業の周知、参加意欲向上に向けた発信

- ・公式ホームページとSNSを活用した個別事業の情報発信、参加者募集案内
- ・「LINK SANRIKU 情報ステーション」や、「まるごと情報発信拠点」とした各施設における事業情報の発信、参加者募集案内
- ・新聞広告、テレビCM、ラジオCM及び各種情報誌等を活用した各事業情報の発信、公式ガイドブックの配架
- ・岩手県広報誌「いわてグラフ」、沿岸と内陸市町村の連携による市町村広報誌での周知
- ・プレスリリースによる各種報道機関等によるニュース化



事業案内ポスター



各種情報誌を活用した情報発信



LINK SANRIKU 情報ステーションでの情報発信

(2) 広告料換算効果

本プロジェクト情報に関して、プレスリリースや事業内容の取材により、県内外の報道機関において約 1,100 件のニュースとして取り上げられました。

これらを広告価値として広告料換算効果を算定したところ、6 億円を超える効果があったと推計したところです。

5 交通輸送、宿泊及び警備安全に係る対応状況

(1) 交通輸送の対応について

沿岸 13 市町村それぞれへのアクセス情報については、公式ホームページにおいて、鉄道、バス、自動車などの移動手段別に情報発信しました。

また、各事業における参加者の輸送については、事業ごとに必要性を検討し、駐車場の確保やシャトルバスの運行などを行いました。

(2) 宿泊への対応について

沿岸 13 市町村の宿泊施設情報のほか、内陸部も含む岩手県のホテルや旅館に関する情報については、公式ホームページにおいて発信したほか、沿岸 13 市町村の宿泊施設については、県内外の情報発信拠点に配架した「三陸防災復興プロジェクト 2019 公式ガイドブック」にも掲載しました。

(3) 警備・安全対策の対応について

事業ごとに警備及び安全対策の必要性を検討した上で避難計画を策定し、警備員及び誘導員の配置を行ったほか、参加者に配付したプログラムに大規模災害発生時の避難先を掲載するなど、万全を期した警備・安全対策を行いました。

[参考] 参加者への避難場所の御案内（三陸防災復興シンポジウム第 3 回プログラムより）

避難場所について

津波注意報の発令など、相当規模の災害が発生する恐れがある場合は、誘導指示票に従って次の場所に避難しましょう。

The image contains two maps. The left map shows a route from Oshibashi Port (大船渡港) to the Kamo Shrine (加茂神社) area, marked with a red star. The right map shows a route from Oshibashi City Gymnasium (大船渡市民体育館) to the Oshibashi Cultural Center (大船渡市民文化館) and the Rias Hall (市立図書館リアスホール), also marked with a red star. Both maps include labels for various buildings and landmarks in the area, such as the Tohoku Bank (東北銀行), various hotels (ホテル), and the Oshibashi Police Station (大船渡警察署).

①大船渡港から
加茂神社境内まで徒歩17分

②大船渡市民体育館から
リアスホールまで徒歩14分

6 事業運営に要した費用

三陸防災復興プロジェクト 2019 運営計画において実施に要する費用を、約 4.6 億円を想定していましたが、経費節減等の結果、実際に要した費用は以下のとおりです。

事業費計 432.3 百万円

区分	事業費(百万円)
①各事業企画制作運営費	357.4
②広報宣伝費	74.9
総計	432.3

① 個別事業実施経費 357.4 百万円

事業名称	事業費(百万円)
三陸防災復興プロジェクト 2019 オープニングセレモニー 三陸防災復興シンポジウム 2019	36.6
さんりく音楽祭 2019	25.2
三陸防災復興プロジェクト 2019 クロージングセレモニー	28.3
LINK SANRIKU 情報ステーション	44.1
いわて HAMA-MESHI プロジェクト	17.6
三陸ステーションガーデンプロジェクト	18.0
「美味えがすと三陸-Gastronomy SANRIKU-構想」推進プロジェクト	39.9
ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」	12.3
三陸ジオパーク ワクワクフェスタ	16.5
三陸ジオパーク フォトログイニング フェスティバル	10.0
三陸防災復興展示会	12.7
さんりく文化芸術祭 2019	11.5
三陸プレミアムランチ列車	4.4
三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」	4.2
さんりく絆スポーツフェスタ	16.1
三陸応援団 元気お届けキャラバン	16.9
“復興の今” 学習列車	3.1
三陸お土産プロモーション大作戦	10.6
いわて三陸学びの旅	7.1
いわて三陸ドライブツーリズム	22.3

※オールいわて・祭りイベントは、市町村振興協会助成金及びさんりく基金助成金を活用し実施したものの。

② 広報宣伝費 74.9 百万円

実施内容は、前述 4 のとおり

7 参加者の状況及び経済波及効果

三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会が主催した 22 事業への参加者数は、約 18 万 5 千人となり、実行委員会の事業と軌を一にして市町村等が実施した関連事業を含め、本プロジェクトによる地域経済への影響を推計したところ、35 億円を超える経済波及効果がありました。

(1) 参加者の状況

事業名	実績	目標	増減
三陸防災復興プロジェクト 2019 オープニングセレモニー	700	600	100
三陸防災復興シンポジウム 2019	1,240	1,100	140
オールいわて・祭りイベント	33,000	15,000	18,000
さんりく音楽祭 2019	5,405	3,000	2,405
三陸防災復興プロジェクト 2019 クロージングセレモニー	1,300	1,000	300
LINK SANRIKU 情報ステーション	19,025	10,000	9,025
いわて HAMA-MESHI プロジェクト	35,600	30,000	5,600
三陸ステーションガーデンプロジェクト	450 (※1)	-	450
「美味えがすと三陸-Gastronomy SANRIKU-構想」推進プロジェクト	3,630	2,700	930
ホタテモザイクアート「ありがとう具画」	3,420	1,500	1,920
三陸ジオパーク ワクワクフェスタ	23,944	36,000	△12,056
三陸ジオパーク フォトロゲイニング フェスティバル	286	400	△114
三陸防災復興展示会	13,000	12,500	500
さんりく文化芸術祭 2019	800	1,000	△200
三陸プレミアムランチ列車	134	100	34
三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」	109	100	9
さんりく絆スポーツフェスタ	15,114	17,000	△1,886
三陸応援団 元気お届けキャラバン	1,039	600	439
“復興の今” 学習列車	138	120	18
三陸お土産プロモーション大作戦	3,689 (※2)	-	3,689
いわて三陸学びの旅	6,331	1,000	5,331
いわて三陸ドライブツーリズム	17,120	16,000	1,120
合計	185,474	149,720	35,754

※1 運営計画では花の装飾のみであったが、地域との協働での事業実施が実現したことから、協働参加者を参加者実績に計上したこと。

※2 物産展での集客数の把握は困難と判断していたが、出店事業者の協力により売り上げに基づく集客推計値が把握できたことから、参加者実績に計上したこと。

(2) 経済波及効果 35.9 億円

主催事業の参加者数約 18 万 5 千人に、市町村等が実施した関連事業を含め、参加者の消費支出を推計して地域経済への影響を算出しました。

8 実施の経過

本プロジェクトの実施に向けた検討経過等は、次のとおりです。

(1) 三陸防災復興博（仮称）準備委員会

【第1回総会】 開催期日 平成29年11月10日（金）

審議事項

- ・総会から常任委員会への委任事項について
- ・三陸防災復興博（仮称）の基本構想について
- ・平成29年度事業計画・収支予算について

【第2回総会】 開催期日 平成30年3月23日（金）

審議事項

- ・基本計画（案）について
- ・会則の改正について
- ・総会から常任委員会への委任事項の改正について

(2) 三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会

【第1回総会】 開催期日 平成30年3月23日（金）

審議事項

- ・役員を選任について
- ・基本計画について
- ・平成30年度事業計画・収支予算について

【第2回総会】 開催期日 平成30年12月19日（水）

審議事項

- ・運営計画（案）について
- ・平成29年度収支決算について
- ・収支予算の補正について

【第3回総会】 開催期日 平成31年3月26日（火）

審議事項

- ・収支予算について

報告事項

- ・実行委員会主催事業の取組状況について
- ・協働・連携の状況について
- ・広報実施状況について

【第4回総会】 開催期日 令和2年2月5日（水）

審議事項

- ・三陸防災復興プロジェクト2019事業について
- ・平成30年度収支決算及び令和元年度収支決算見込みについて
- ・令和元年度収支決算承認の会長への委任について
- ・実行委員会の解散及び会則の廃止について

報告事項

- ・三陸防災復興プロジェクト2019の成果の継承の方向性について

(3) 常任委員会

委員会からの委任事項及び委員会への付議事項について審議しました。

① 三陸防災復興博（仮称）準備委員会 常任委員会

【書面議決】 平成 29 年 12 月 1 日（金）

【第 1 回】 平成 30 年 3 月 13 日（火）

② 三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 常任委員会

【第 1 回】 平成 30 年 5 月 10 日（木）

【第 2 回】 平成 30 年 10 月 22 日（月）

【第 3 回】 平成 31 年 3 月 15 日（金）（書面議決）

【第 4 回】 令和 2 年 1 月 17 日（金）

(4) 専門部会

① 三陸防災復興博（仮称）準備委員会 企画・広報専門部会

企画・広報専門部会を設置し、実施事業の企画検討及び機運醸成を図るための広報について検討しました。

【第 1 回】 開催期日 平成 30 年 2 月 14 日（水）

② 三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会 専門部会

「企画・運営」「広報」「協働・おもてなし」の 3 つの専門部会を設置し、基本計画に掲げる事業の具体化に向けた検討を行いました。

ア 企画・運営専門部会

【第 1 回】 平成 30 年 6 月 14 日（木）

【第 2 回】 平成 30 年 9 月 25 日（水）

【第 3 回】 平成 31 年 2 月 12 日（火）

※協働・おもてなし専門部会との合同開催

イ 広報専門部会

【第 1 回】 平成 30 年 6 月 7 日（木）

【第 2 回】 平成 30 年 9 月 10 日（月）

ウ 協働・おもてなし専門部会

【第 1 回】 平成 30 年 6 月 14 日（木）

【第 2 回】 平成 30 年 9 月 25 日（水）

【第 3 回】 平成 31 年 2 月 12 日（火）

※企画・運営専門部会との合同開催

(5) 市町村との連携に向けた会議の開催

① 基本計画検討状況に係る意見交換等の実施

ア 沿岸市町村との意見交換会

県北広域振興局（久慈地区）管内 平成30年2月15日（木）

沿岸広域振興局管内 平成30年2月16日（金）

ア 内陸市町村への説明会

県南広域振興局管内 平成30年2月15日（木）

盛岡、

県北広域振興局（二戸地区）管内 平成30年2月16日（金）

② 市町村連絡会議の開催

開催運營業務の準備状況に応じて情報提供を行い、実行委員会と県内全市町村との連携又は協働事業の実施に向けた調整や、市町村間の連携事業等の実施の方向性などについて意見交換を実施しました。

【第1回】 平成30年5月30日（水）

【第2回】 平成30年10月5日（金）

【第3回】 平成31年2月6日（水）



三陸防災復興プロジェクト 2019 実施結果報告書

2020年2月

三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会

[事務局]

岩手県政策地域部三陸防災復興プロジェクト 2019 推進室

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10 番 1 号

電話：019-629-6222 E-mail：ab0012@pref.iwate.jp

ホームページ：<https://sanriku2019.jp>